

ANNUAL REPORT

2014 – 2015

No. 38



Division of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済、経営、都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的、数理的、計量的）アプローチによって解明し、政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2015年5月現在の本域所属の教員は、教授23名、准教授23名、講師2名、助教11名の合計59名、連携大学院教員7名（教授5名、准教授2名）を加えると66名である。それぞれの構成員は、国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の2014年度中の研究・教育活動は、以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本域の研究活動は、2014年度も全分野（社会経済、経営工学、都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては、最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入に努め、外部研究資金を着実に獲得している。2014年度の科学研究費の採択本数は21件（基盤(A)1件、基盤(B)3件、基盤(C)12件、挑戦的萌芽3件、若手2件）、継続21件（基盤(A)2件、基盤(B)5件、基盤(C)9件、挑戦的萌芽3件、若手5件）と合わせると39件となる。

また、研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2015年5月現在、リサーチユニット12件、リサーチグループ13件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして、昨年度より、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻を改組し、社会工学専攻が発足した。その中で博士前期課程(システム情報工学研究科)においては社会工学学位プログラムとサービス工学学位プログラムの二本柱で教育を推進している。これに加え、旧課程の社会システム工学専攻と経営・政策科学専攻の他に、リスク工学専攻、生命環境科学研究科環境科学専攻で教育活動を行っている。一方、博士後期課程(システム情報工学研究科)では、社会工学専攻に加え、旧課程である社会システム・マネジメント専攻の他に、リスク工学専攻において教育活動を行っている。これらに加え、学類教育組織は、理工学群社会工学類、および社会・国際学群国際総合学類の教育を本域では担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。加えて、社会工学専攻では改組前の2008年度より院生活動支援プロジェクトを実施し、自前の予算で学生による国内外の研究発表を経済的に支援している。また、社会工学専攻の博士後期課程で

は改組前の2007年度より「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修生として社会人を継続的に受け入れている。さらに、社会工学専攻さらには社会工学類の一部の講義では、教育の高度化を目指し、グループ作業、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。なお、社会工学同窓会、社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に、2008年から社会工学類の優秀な卒業生3名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は、清華大学、浙江大学、北京航空大学、香港理工大学（中国）、漢陽大学校、弘益大学校、韓国国土研究院、ソウル市立大学校（韓国）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）、ルール大学ボッフム校（ドイツ）、アル・アハワイン大学（モロッコ）と多岐にわたっている。これらの大学・研究機関とは、若干名ながら研究者および学生の交流・交換が続いている。その他の機関からの外国人研究者の受け入れや本域教員の海外派遣は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることを示している。

さらに、実学も重視し国、自治体、企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や、茨城県内5市（北茨城市、高萩市、神栖市、潮来市、鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において、本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウム開催など社会連携活動へ大いに貢献した。さらに、サービス工学分野ではその研究領域の特性を活かし、ビッグデータ分析の研究拠点として関係者の耳目を集めている。

(4) 組織

本域教員の流動性が高く、それに伴い審査付学術論文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもち、工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで、若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。昨年度に実施した社会工学専攻への改組では、本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに、組織力を生かした運営を通じ、社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成し

ていきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに、本域の活動を知っていた
だく上で有効に活用されれば幸いである。

2015年6月16日

社会工学域長、社会システム・マネジメント専攻長、社会システム工学専攻長、
社会工学専攻長

谷口 守

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2015/6/1 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス組織の経営学(人社系)	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。	生稻 史彦
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点形成を形成することを目的とする。	有田 智一
空間情報科学(複合系)	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三
価値創造(複合系)	ビッグデータが注目される中、複数の情報を組みあわせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。	繁野 麻衣子

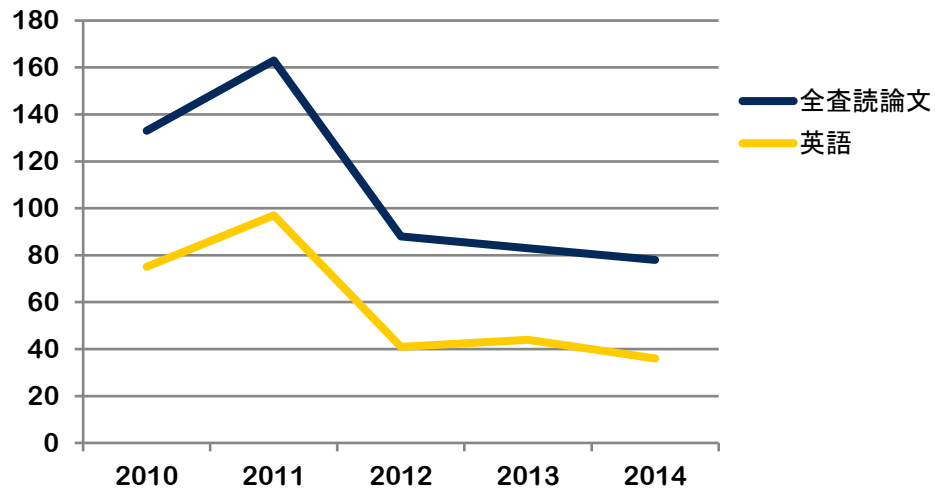
生態系サービス研究(複合系)	研究グループは社会工学域の以下の3名の教員が中心となっている。代表の吉野はリモートセンシングデータ解析による地域の環境評価、特に土地利用分析を専門としている。中核教員の村上は、緑地計画をベースに環境デザインに精通している。また、もう1名の中核教員の甲斐田は、環境の経済価値評価ならびに開発プロジェクト評価を専門としている。本研究グループは、共通の研究対象地に対して、これら3名の教員の研究専門分野と得意な研究ツールを互いにオーバーラップさせることにより、研究対象地における環境問題の解決をはかり、さらに生態系サービス水準を向上させる管理政策の提言が可能である。具体的には、本研究グループは、地域環境から我々が享受している生態系サービスの持続的維持、管理、有効利用を図るため、問題・課題の発見、現状把握、変化過程のモニタリング、様々な視点からの評価、実際的な政策提言を行う課題を研究テーマとして活動する。	吉野 邦彦
マネジメント・サイエンス、経済学、心理学にわたる共同学際研究(複合系)	社会工学域所属の5人の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・ファイナンス・マーケティング)および経済学(産業組織論)分野の共同学際研究	金澤 雄一郎
スポーツ産業人育成プログラムの開発と研究	スポーツ・サービス産業活性化及び雇用創出に寄与する起業家的人材の発掘・育成・輩出流動の好循環化・システム化を目的とした産学連携・学問横断型チームであり、実学・実務に根付いた新たな学位プログラム創出を目指すグループである。	岡田 幸彦

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員 (2015/6/1 現在)

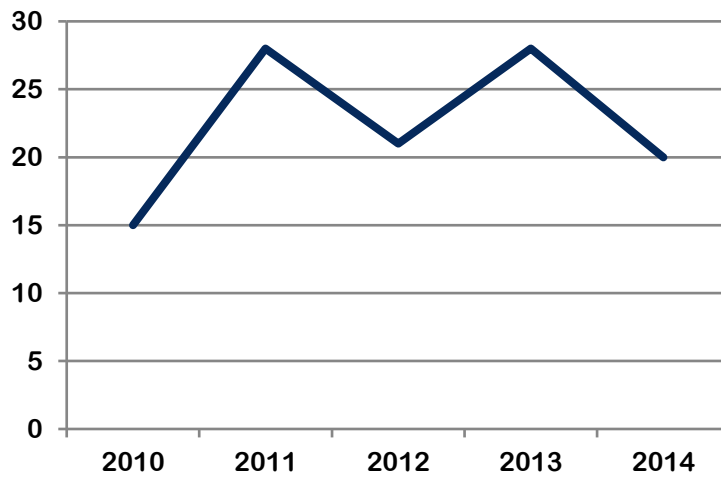
課題名	概要	代表者
国際金融システム・政策協調の将来を考える	国際経済の分野(例 経済統合、リスク・シェアリング、貧困問題で、世界水準の研究活動を積極的に展開することにより、将来的には国内・アジア地域の一大研究拠点となることを目標とする。	永易 淳
情報ネットワークの効率と安全に関する研究	有限体や有限幾何を用いて、各種の組合せ的デザインの構成、符号、暗号・認証システム、あるいは安全で効率的なネットワークの構築のための研究を行う。	藤原 良叔
行動論的・社会的・心理学的アプローチによる社会経済システムの解明	本グループでは、社会的・経済システムに及ぼす様々な要因を、心理・社会実験、調査、シミュレーションなどの多面的なアプローチから明らかにし、従来の研究枠組みを超えた新しい知見や、方法論を構築する。	石井 健一
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を超えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループにおいては、環境経済学、都市計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
地理情報の解析と視覚化	数理科学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明
社会における人間の心的内部構造—理論・実験・シミュレーションによる研究	プレイヤー達がどのようにして経験・記憶から社会構造を理解するかは、ゲーム理論と経済学の基本問題である。この基本問題を理論・実験・シミュレーションなどの様々な観点から研究するのが、本プロジェクトの目的である。	秋山 英三
電子・情報産業による社会革新事業の創生に向けたエレクトロニクス産業の生産性革命	電子デバイス産業を念頭に、複雑化した生産システムの統合的オペレーション管理システムの構築・実装・効果の実証を目指す。システム構築の方法論には、サプライチェーン全体と生産プロセスを統合する設計ツール、技術価値化方策の発展的議論を含む。性能・価値評価のため、複数企業で実証研究を行う。	住田 潮
マネジメント・サイエンス・経済学・心理学にわたる学際研究	社会工学域所属の4人の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・産業組織論・マーケティング)および経済学(マイクロ経済学・産業組織論)分野の共同学際研究	金澤 雄一郎
マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用	本研究は、大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなマイクロ計量経済学的手法の開発と、日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的としている。	大久保 正勝

都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	梅本 通孝
地域生態系の持続的機能維持のための地域環境政策に関する研究	開発圧力が顕在化している国内外の都市郊外地域を対象にして、その地域社会の持続発展と地域生態系機能の持続的維持を図る地域政策と環境政策を、環境影響評価、地域政策、環境政策の観点から解明する。	吉野 邦彦
産学連携によるサービス組織の経営学	広義の経営学は、経営学・会計学・商学と細分される。本グループでは、伝統的な経営学・会計学・商学の区分と産学の壁をブレークスルーし、産学連携によるサービス経営学の新たなフロンティアを開拓する。	岡田 幸彦
都市・地域の経営とデザインに関する国際研究	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。	有田 智一

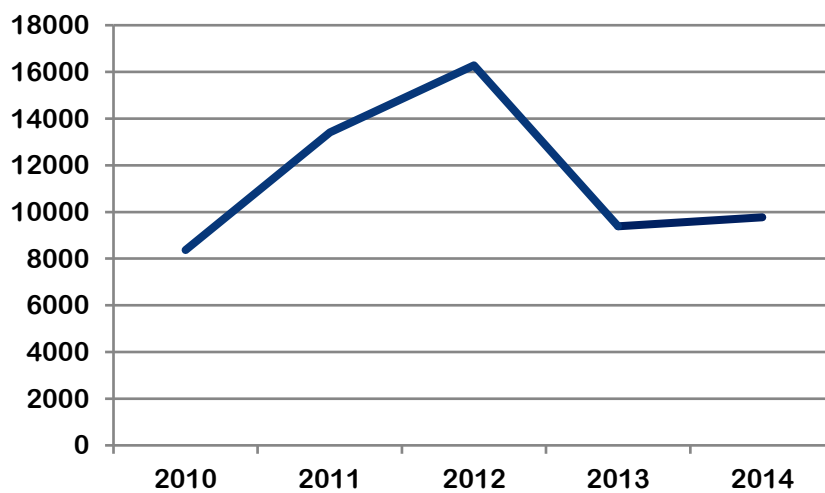
教員過去5年間の論文数



教員過去5年間の著書数



科研費合計額(単位:万円、直接+間接経費、代表者が社工教員)



II. 教員一覽

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション	力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
浅野 哲	計量経済学、マイクロ計量経済学	マイクロ経済学的分析手法の開発と応用
石田 東生	都市交通計画、社会基盤施設計画、交通需要予測	公共交通の成立性、自動車保有と世帯交通活動、社会資本整備と合意形成
糸井川 栄一	都市リスク管理、地区安全計画	都市防災計画の数理化、都市・地域の災害脆弱性評価、効果的な都市防災対策、安全・安心まちづくり
大澤 義明	都市計画、地域科学	都市計画、社会工学、地域科学
金澤 雄一郎	統計学、データ解析	離散選択モデル、共分散構造分析、ノンパラメトリック密度関数・回帰関数推定論、欠損値のある場合の統計解析、生存時間解析
岸本 一男	数理工学	デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析
イリチュ(佐藤)美佳	多次元データ解析、統計科学	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	都市解析、立地分析、地理情報科学	施設配置計画、都市空間構造評価、立地・輸送におけるリスク分析、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性
住田 潮	確率過程・応用確率論、情報システム/マルチメディア、ネットワーク、国際経営比較	集合値関数の構造解析、情報システムの性能評価、応用確率モデルのビジネス分野への適用
高木 英明	通信ネットワーク、確率モデル、待ち行列理論	サービス科学、待ち行列理論とその応用、多重サービス高速通信ネットワークの性能評価
堤 盛人	不動産、空間統計、地理情報科学	不動産価格・資料、空間的自己相関、空間統計学、空間計量経済学、応用都市経済モデル、社会資本ストック推計、プロジェクトファイナンス、建設関連業、無電中化
中村 豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
橋本 昭洋	国際金融、金融ファイナンス、計量経済	社会システム分析、公共部門意思決定、評価・決定方法論、非画一的総合評価

藤川 昌樹	建築史・都市史、保全型都市計画	日本の近世都市・住宅の空間構成に関する研究、歴史的市街地の保全、日本及びアジアの伝統的都市の近代化
藤原 良叔	組合せ理論とその応用	周波数ホッピング系列、符号と暗号、Galois Field Package の開発、バランスド・アレイの構成法
繆 瑩	組合せ論、符号理論、情報セキュリティ	デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、線形符号の誤り訂正能力および追跡能力の評価、グループ検査方式の開発
山本 芳嗣	数理計画	大域最適化、組合せ最適化、アルゴリズムの開発
吉瀬 章子	数理計画、オペレーションズ・リサーチ	錐計画問題に対するアルゴリズムの開発と応用、相補性問題に対する数値的アルゴリズムの開発、データ解析、サービス科学における最適化モデルの適用
吉野 邦彦	リモートセンシング、地域環境工学	生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析
渡辺 俊	建築計画、都市計画、設計学	ポスト定住化社会における時空を超えたアクティビティの流動化実態に関する実証的研究、拡張現実技術を利用した実空間景観シミュレーションシステムの開発、東アジアの伝統的都市の再開発手法に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究
渡辺 真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人－仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	
生稲 史彦	イノベーション、技術マネジメント、製品開発論	コンテンツ産業及びサービス産業における開発マネジメント、技術経営、イノベーション
石井 健一	コミュニケーション、情報社会	キャラクターの消費行動、海外における日本アニメの受容、インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動
石川 竜一郎	ゲーム理論、ミクロ経済学	社会構造の認識の形成とその変遷、情報社会的価値、家計内在配分に出産が与える影響
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	犯罪不安に関する認知・感情プロセスのモデル化とその応用、慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法、意思決定における後悔の時間的変化と回復方法、進路意思決定における認知・感情課程のモデル化、逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究、環境ホルモンのリスク認知プロセス
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
奥島 真一郎	環境経済学、政策分析	分解分析手法の開発、モラルモチベーションと環境政策、エネルギー貧困
木島 陽子	経済発展論	発展途上国における貧困がいかんして削減されるかを現地調査により収集した家計データを用いて実証分析を行う
倉田 久	サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理	サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究
高橋 正文	派生証券評価、金融リスク管理	デリバティブ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究
高橋 義明	幸福度研究、行動経済学(消費者問題)、応用計量経済	幸福度概念の各国間比較(インド、タイ、ブータン、フィリピンなどでの現地調査)、制度が個人の意味決定に与える影響(裁判制度など)、地域づくりにおける幸福度指標の意義・課題

谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク・コミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスク・コミュニケーション
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのマイクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
永易 淳	国際金融、金融ファイナンス、計量経済	金融・為替政策の分析、経済・金融危機、金融資産価格変動の分析と予測、投資家の行動分析
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、まちづくり法制、住環境整備	都市計画制度の体系的運用方策の検討、地域住民等の発意を活かした地区レベルのまちづくり、少子高齢・人口減少時代の既成・郊外住宅地や住宅団地の住環境上の問題と再整備の方向性、地域資源を活用したまちづくりビジネス・地域経営
松原 康介	都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカをはじめとする、アジア・アフリカ地域の都市計画史、国際協力に基づく多文化共生型の都市計画論
村上 暁信	園芸学、造園学	ランドスケープ計画、都市と農村の一体的整備手法、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、気候風土と景観
桃田 朗	マクロ経済理論、人口経済学	人口問題を考慮したマクロ経済理論の構築、およびその応用可能性に関する研究
渡邊 直樹	ゲーム理論、マイクロ経済学	特許ライセンス、入札、投票、交渉

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	コンピューターデバイス、生産管理、オペレーション管理	QCDモデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
近藤 文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次POSデータの価格反応モデル分析

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
安東 弘泰	数理工学、非線形ダイナミクス	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用
牛島 光一	都市経済学、健康の経済学、教育の経済学	マイクロデータを用いて子供の人的資本への投資に関する実証研究
太田 尚孝	都市計画、都市計画史、都市再生・地域再生、防災まちづくり、ドイツ都市研究	東日本大震災の都市・地域再生、セグリゲーション問題と解決方法、人口減少、需要縮小時代の都市と地域のあり方、日独の計画文化
甲斐田 直子	環境経済・政策学、環境配慮行動分析	環境配慮行動の促進方策、環境自然資源価値の経済評価、環境社会システム分析、環境ガバナンス、国際環境協力
川村 大伸	品質管理、応用統計学	製品およびサービスの品質評価、実験計画法、統計的工程管理
栗野 盛光	マーケットデザイン、実験経済学、ゲーム理論	マッチング市場における中央集権的あるいは分権的制度のデザイン
佐野 幸恵	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス	ソーシャルメディアにおける情報拡散、テキスト情報からの感情抽出、社会現象における普遍則
竹原 浩太	金融工学、数理ファイナンス、応用確率解析	金融工学、数理ファイナンス、金融派生証券(デリバティブ)、ファイナンスにおける解析的/数値的手法、確率解析
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

III. 教員別の教育研究業績

氏名	秋山 英三	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会学専攻 専任		
担当学類	社会学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

社会学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論／社会学における戦略的思考

大学院前期課程

社会シミュレーション

◆ 指導学生数：

学類4、社シス5、社シマ3

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究 (C) 人間の認知・行動と「金融資産市場の定式化された事実」：シミュレーションと行動実験（代表）
- 基盤研究 (A) 制度・認識・社会正義の経済学の構築に向けて（代表者：金子守）
- 基盤研究 (A) 老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論的、実証的研究（代表者：大澤）
- 基盤研究 (B) 帰納的学習による意思決定理論の構築と資産取引実験への応用（代表者：石川竜一郎）
- 基盤研究 (B) 成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築（代表者：谷口守）

◆ 著書・論文等：

- ・ Akiyama, E., Hanaki, N., and Ishikawa, R., How do experienced traders respond to inflows of inexperienced traders? An experimental analysis, *Journal of Economic Dynamics and Control*, 45, 1-18, August

(2014). 査読有 <http://dx.doi.org/10.1016/j.jedc.2014.05.007>

- Yonenoh, H. and Akiyama, E., "Selection of opponents in the Prisoner's dilemma in dynamic networks: An experimental approach", *Journal of Theoretical Biology*, 351, 25-36, June (2014). 査読有 <http://dx.doi.org/10.1016/j.jtbi.2014.02.006>
- 藤倉崇晃, 小川一仁, 秋山英三, "仲介者と取引するトレーダーの曖昧性忌避とリスク回避 —経済実験による検証—," *応用経済学研究*, 8, 69-94, March (2015). 査読有
- 米納弘渡, 秋山英三, "協力者が裏切者とのリンクを切断する動的ネットワーク上での協力の進化," *The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS 2014)*, 4 pages, 10月 (2014), USBメモリ配布. 査読有.
- 岩田学, 秋山英三, "リンクの太さの不均一性が協力の進化を促進する条件," *日本ソフトウェア科学会ネットワークが創発する知能研究会 (JWEIN14) 講演論文集*, 7 pages, 8月 (2014), USBメモリ配布. 査読有.

◆ 学会発表等 :

- Eizo Akiyama, "Evolution of Behavioral Heterogeneity," 14th SAET Conference on Current Trends in Economics, Waseda University, Tokyo, Japan, August 19, 2014.
- Eizo Akiyama, Nobuyuki Hanaki, Ryuichiro Ishikawa, "How do experienced traders respond to inflows of inexperienced traders? An experimental analysis," *日本ファイナンス学会「実験アセットプライシング・コンファレンス」*, 青山学院大学, 2015/03/09.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

- 社会工学専攻 施設委員会 委員
- 社会工学専攻 運営委員会 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

- 社会工学類 施設委員会 委員
- 社会工学類 クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 学会

- SAET Conference on Current Trends in Economics, Local Organizing Committee
- ネットワークが創発する知能研究会 2014 プログラム委員
- JAWS2014 (Joint Agent Workshops and Symposium 2014) プログラム委員

氏名	雨宮 護	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市・地域・環境を探る I、住まいと居住環境の計画、住環境計画実習、創造的復興・視点構築演習、創造的復興：チャレンジ学外演習、社会調査実習、都市計画事例講義および実習

大学院 都市と環境

◆ 指導学生数：

なし（着任初年度のため）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手 B）「小地域時系列犯罪統計に基づく「防犯まちづくり」の効果検証と評価目録の作成」（2014年度～2016年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「割れ窓理論再考:秩序違反行為に影響するメソレベル環境要因の特定と実証的介入」（代表：島田貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長）），分担研究者（2014年度～2017年度）
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 A）「地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用」（代表：鈴木勉（筑波大学システム情報系教授）），分担研究者（2014年度～2015年度）
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 B）「持続的な都市の形成に向けた新たな農の概念とその計画」（研究代表者：横張真（東京大学工学系研究科教授）），分担研究者（2013年度～2015年度）

5. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的萌芽）『予防犯罪学』の開拓をめざした子どもの被害防止ツールキットの実証実験」（研究代表者：原田豊（科学警察研究所犯罪行動科学部長）），分担研究者（2013年度～2015年度）
6. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「防犯まちづくり手法による子どもの屋外環境改善プログラムの開発」（研究代表者：樋野公宏（建築研究所都市・住宅研究グループ主任研究員）），分担研究者（2012年度～2014年度）
7. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的萌芽）「自然体験からみる都市域の緑地の利用と変遷」（代表：古谷勝則（千葉大学園芸学研究科准教授）），連携研究者（2012年度～2014年度）
8. 全国安全都市会議・柏市「振込め詐欺に関する共同研究」（代表：清永賢二（全国安全都市会議議長）），2014年度
9. 山梨県富士山科学研究所（基盤研究）「富士山周辺における非熟練ボランティアの野外活動の安全確保に関する研究」（代表：池口仁（山梨県富士山科学研究所主任研究員）），共同研究者（2014年度～2016年度）
10. 独立行政法人科学技術振興機構・先導的創造科学技術開発費補助金「明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム」（代表：飛原英治（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）），都市計画グループ担当（2010年度～2014年度），参画（2010年度～2013年度）・連携（2014年度）

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

1. 新保奈穂美・雨宮護・横張真：都市農地における都市住民を担い手とする有機性廃棄物利用システムの実態解明，都市計画論文集，49巻3号，219～224頁，2014年10月．
2. 渡部陽介・宮本万理子・雨宮護・寺田徹・横張真：カシニワ制度に基づくコミュニティガーデンにおける公共性の変化，ランドスケープ研究，77巻5号，713～718頁，2014年3月．

（著書（専門書））

1. 浅田正彦・浅見泰司・雨宮護・石坂公一・大木祐悟・齊藤広子・阪井暖子・清水千弘・周藤利一・瀬下博之・寺田徹・富永麻倫・野呂瀬秀樹・平山洋介・山口幹幸・横張真・吉田友彦，都市の空閑地空き家を考える，

「空閑地の農的活用事例と住宅地の『安全・安心』への貢献の可能性」,
41～55 頁, プロGRESS, 2014 年 9 月.

(総説・報告)

1. 横張真・雨宮護・寺田徹: 成熟社会の新しいライフスタイルとみどり,
都市公園, 204 号, 4-8 頁, 2014 年 4 月.
2. 雨宮護: 空閑地の暫定利用に基づく都市郊外部の緑地整備の方向, 環境
情報科学, 43 巻 1 号, 18-23 頁, 2014 年 4 月.

(審査のない雑誌論文・紀要)

1. M. Amemiya, T. D. Hata, and G. Kikuchi, Parental Altruistic Fear:
Environmental Cues and Association with Children's Outdoor Play, CSIS
Discussion Paper 128, 2014

◆ 学会発表等:

- A) 山本幸子・雨宮護・田野井雄吾・プーア・イーエマル・石村匠・小川恭
平・下田春奈・中村江・柳澤直哉 (2015) 大災害後に発生する空閑地の
把握と地域資源としての活用: 竜巻被災地・つくば市北条地区での実践,
2015 年度農村計画学会春期大会, 東京大学, 2015.4.11 (梗概: 農村計画
学会学術研究発表会要旨集, pp.34-35)
- B) 岩倉希・雨宮護・羽生和紀 (2015) 犯罪者の環境認知と犯罪行動, 第 8
回日本環境心理学会, 駿河台大学, 2015.3.14
- C) 張心笛・雨宮護・大澤義明 (2014) 景観面から見た街路樹の維持管理コ
スト削減策の評価, 都市の OR ワークショップ, 南山大学, 2014.12.13
- D) 張心笛・大澤義明・雨宮護 (2014) 景観面から見た街路樹の維持管理コ
スト削減策の評価, 応用地域学会 2014 年度第 28 回研究発表大会, 沖縄
産業支援センター, 2014.11.29
- E) 土方孝将・雨宮護・梅本通孝・糸井川栄一・太田尚孝 (2014) 住宅侵入
盗被害率と被害宅の未施錠率に基づく地区分類—茨城県下 5 市の市街地
を対象として, 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発
表大会「CSIS DAYS 2014」, 2014.11.22 (梗概: Research Abstracts on Spatial
Information Science CSIS DAYS 2014, p.48)
- F) 雨宮護 (2014) 暴露人口を考慮したひたくり被害リスクの算出・可視
化の試み: 「人の流れ」データを活用して, 東京大学空間情報科学研究セ
ンター全国共同利用研究発表大会「CSIS DAYS 2014」, 2014.11.21 (梗概:
Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2014, p.22)

- G) 新保奈穂美・雨宮護・横張真 (2014) 都市農地における都市住民を担い手とする有機性廃棄物の利用システムの実態解明, 日本都市計画学会第 49 回学術研究論文発表会, 近畿大学, 2014.11.15
- H) 岩倉希・雨宮護 (2014) 生活環境における住居侵入犯罪に関する空間行動の研究, 第 55 回日本社会心理学会大会 (ポスター発表), 北海道大学, 2014.7.26-27 (梗概: 第 55 回日本社会心理学会大会論文集, 374)
- I) 島田貴仁・高木大資・雨宮護 (2014) 街頭防犯カメラに対する態度構造と社会的受容, 第 55 回日本社会心理学会大会 (口頭発表), 北海道大学, 2014.7.26-27 (梗概: 第 55 回日本社会心理学会大会論文集, 9)
- J) 高木大資・島田貴仁・雨宮護 (2014) ”監視”が地域についての認知に与える影響, 第 55 回日本社会心理学会大会 (口頭発表), 北海道大学, 2014.7.26-27 (梗概: 第 55 回日本社会心理学会大会論文集, 8)
- K) 渡部陽介・宮本万理子・雨宮護・寺田徹・横張真 (2014) カシニワ制度に基づくコミュニティガーデンにおける公共性の変化, 平成 26 年度日本造園学会全国大会, 西日本短期大学, 2014.5.25
- L) M. Amemiya (2014) Where are children victimized?: Examining Routine Activity Theory (RAT) using a GPS log data analysis, poster session, EDRA 45, New Orleans, LA, May 28-31 2014
- M) 新保奈穂美・雨宮護・浜泰一・横張真 (2014) 都市内菜園を中心とした資源循環系の成立要件: 東京都日野市 S 農園の事例より, 2014 年度農村計画学会春期大会, 東京大学, 2014.4.12 (梗概: 農村計画学会学術研究発表会要旨集, pp.10-11)
- N) 土方孝将・糸井川栄一・梅本通孝・太田尚孝・雨宮護・島田貴仁 (2014) 住宅侵入盗被害傾向と被害宅未施錠傾向に関する研究: 茨城県下の市街地を対象として, 第 7 回日本環境心理学会, 白鷗大学, 2014.3.16

◆ その他:

- 2014 年 11 月 平成 26 年度 CSIS DAYS 2014 優秀研究発表賞
 2014 年 5 月 平成 25 年度 日本都市計画学会 年間優秀論文賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
 e ラーニング担当教員 (社会工学類)

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

eラーニング委員会・委員

4. 学外の社会貢献

（学会活動）

1. 日本都市計画学会将来ビジョン検討タスクフォース（2014年度～）
2. 日本都市計画学会査読委員（2014年度～）
3. 都市住宅学会編集委員（2014年度～）
4. 日本都市計画学会総務企画委員（2012年度～）
5. 日本都市計画学会情報委員（2009年度～）
6. 日本造園学会研究論文集校閲委員（2007年度～）

（学外組織からの委嘱委員等）

1. 福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー（2014年度～）
2. 日本公園緑地協会「今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会」委員（2013年度～）
3. 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員（2013年度～）
4. 土浦市「土浦市公共施設跡地利活用方針策定委員会」委員（2014年度）

（一般向け講演）

1. 雨宮護（2014）これからの防犯活動とまちづくり，波崎自警団10周年記念講演会，サンシャインホール雅，2014.11.02
2. スマ・エコシティつくば研究学園区会・新都の街区会「防犯講習会」（210分×1回，ワークショップを含む）（2015年2月28日）
3. いばらき子ども大学実行委員会・茨城県教育委員会・茨城大学社会連携センター「いばらき子ども大学（県南キャンパス）・未来の公園を考えよう」（120分×1回，ワークショップを含む）（2015年1月24日）
4. 東京都青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課「地域の危険箇所改善指導者講習会」（370分×2回，ワークショップを含む）（2014年9月26日～27日）

（教材等作成）

1. 東京都青少年・治安対策本部安全・安心まちづくり課（編集），樋野公宏・雨宮護・坂本千晴（監修）（2015）地域の危険箇所改善ガイドブック，51pp.
2. 樋野公宏・雨宮護「はじめよう！安全なまちづくりー地域の危険箇所点検と環境改善の手引き」，8pp.，2015年.

氏名	有田 智一	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市・地域政策, 都市計画制度、産業集積		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：社会工学実習、都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、東京の都市学、都市構造論、都市・地域・環境を探るⅡ（総合科目）、建築関連法規（世話人教員）

社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ、社会工学ファシリテーター（国際交流ワークショップⅠ）、住宅・建築・まちづくりに関する今日的課題と対策（世話人教員）

サービス工学学位プログラム：サービス工学特別講義Ⅳ

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名

社会システム工学専攻 3名

社会工学専攻社会工学学位プログラム 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

・科学研究費補助金基盤研究 A「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（研究分担者）

・民間都市開発推進機構都市再生研究助成「東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究—茨城県大洗町を事例に一」（研究分担者）

・旭硝子財団「液状化に関わる市街地整備のリスクマネジメントと都市計画技術のあり方に関する研究」（研究分担者）

・受託研究：土浦市行政課題調査研究事業：「ソトモノ・ワカモノの視点から見た「土浦の魅力・強み」の発掘とそのPRに関する調査」（研究代表者）

・愛知大学三遠南信地域連携研究センター【越境地域政策研究拠点】2014年度 共同研究（一般共同研究）「ドイツ・ノルドライン・ヴェストファーレン州の内発的・創造的な越境地域マネジメント手法に関する研究 -IBA エムシャーパーク後の Regionale の展開と課題に注目して-」（研究代表者）

◆ 著書・論文等：

伊藤彰良、有田智一、「アパレル小売集積地区の成長と空間特性に関する研究：原宿を対象として」、都市計画論文集(49)、2014、pp.831-836.

◆ 学会発表等：

1. 伊藤彰良、有田智一、「アパレル小売集積地区の成長と空間特性に関する研究：原宿を対象として」、都市計画論文集(49)、2014、pp.831-836.

2. Tomoki Kitazaki and Tomokazu Arita, “The effects of Special Districts for Urban Regeneration aiming at sustainable growth of matured Megacity Regions in Japan”, International Symposium on City Planning 2014, Hanoi, Vietnam, November 7th, 2014, Vietnam Urban Planning and Development Association

◆ その他：

1. 日本建築学会建築法制委員会用途規制再構築検討小委員会公開研究会「社会変化に対応する用途規制の新しい方向性」、パネリスト、2014年12月9日、日本建築会館

2. 日本都市計画家協会公開研究会「都市計画のオーラル・ヒストリー：－蓑原敬が語る都市計画の制度・環境・プランナー論－：第3回」パネリスト、2015年2月17日、首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学アドミッションセンター（AC入試）専門委員

グローバルレジデンス整備事業審査委員会委員

全学つくば連携推進室室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院入試実施委員会委員長

社会工学類カリキュラム委員

建築士受験資格運営委員会委員長

社会工学類学生担当委員

社会工学コモンズ検討委員会委員

学園祭委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 東京都住宅政策審議会委員
- ◆ 東京都住宅政策審議会企画部会委員
- ◆ 東京都住宅政策審議会マンション政策部会委員
- ◆ 東京都マンション共同化建替えモデル事業選定委員会委員長
- ◆ 東京都建築審査会委員
- ◆ 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- ◆ 埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
- ◆ 千葉県松戸市建築審査会委員
- ◆ 茨城県土浦市行財政改革推進委員会委員長
- ◆ 茨城県土浦市空き家等審議会委員長
- ◆ 茨城県水戸市住生活基本計画策定委員会委員
- ◆ 茨城県神栖市総合計画進捗状況評価会委員
- ◆ 日本建築学会法制委員会委員
- ◆ 日本建築学会用途規制再構築検討小委員会主査
- ◆ 都市住宅学会関東支部常議員
- ◆ 都市住宅学会学術委員会委員
- ◆ 都市住宅学会学会賞委員会委員
- ◆ 都市計画家協会オーラル・ヒストリー研究会委員
- ◆ 都市計画家協会都市プランナー職能研究会委員
- ◆ 財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

氏名	有馬 澄佳	職名	講師
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	生産システム工学、技術経営とビジネスモデル・イノベーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：生産・品質管理，マネジメント実習，経営の科学 III，問題発見と解決

大学院：生産・品質管理

◆ 指導学生数：7名

社会工学類 3名 / 社会システム工学専攻 2名 / 経営・政策科学専攻 1名

社会工学専攻 研究生 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費補助金 若手 (B) (研究代表者：有馬澄佳, H25～26年度 (2年), 416万円)「共創ビジョンに基づく半導体産業のビジネスモデル進化と、知財・人材の組織的流動化」

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

N. Ishikawa, R. Nakatani, Y. Monma, T. Daiku, S. Arima, “Development of Database and Comprehensive Indexes for Opening Valuation of Local Activities in Japan,” Proceedings of 2014 IEEE Conference on E-Learning, E-Management, and E-Services, IEEE, Dec. 2014.

◆ 学会発表等：

- ・ 国際会議：N. Ishikawa, R. Nakatani, Y. Monma, T. Daiku, S. Arima, “Development of Database and Comprehensive Indexes for Opening Valuation of Local Activities in Japan,” 2014 IEEE Conference on e-Learning, e-Management, and e-Services(IC3e2014), Dec. 10th-12th, 2014. (開催場所 Swinburne University of Technology, Melbourne, Australia)

- ・ 招待講演：有馬澄佳, 「Technology と Social Innovation」, リソグラフィ戦略会議 2014, DNP 創発の杜 (箱根研修センター), 2014 年 04 月.

◆ その他：

2013/04-2016/03 産学連携推進プロジェクト(アントレプレナーシップ・知財教育)

「社会起業家精神に基づく日本版技術経営=ビジネスモデル・イノベーションの教育体系の構築～21 世紀：知識社会において」(有馬澄佳), 40 万円/年×3 年.

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

1 年次クラス担任、学類広報委員、大学院広報・新入生オリエンテーション委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ IEEE (The Institute of Electrical and Electronics Engineers) 査読 4 件
- ◆ 日本経営工学会 春季大会 セッション・チェア
- ◆ AEC/APC symposium Asia プログラム委員会 副委員長
- ◆ JEITA DFM 小委員会 客員

氏名	安東弘泰	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学実習／社会工学専門英語
- ◆ 指導学生数：
 - なし

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 【受託研究】 SIP 次世代パワーエレクトロニクス「SiC パワーデバイス応用による低容量小型パワー集積回路開発およびパワープロセッシング技術の研究開発」（代表機関：京都大学）（再委託）
- ◆ 著書・論文等：
 - H. Ando, E. Estrada, Communication Robustness in Graphs Measured by the Communicability, in Proc. of 25th Symposium on nonlinear theory and its applications (NOLTA2014), pp. 533-536.
- ◆ 学会発表等：
 - 【1】 安東弘泰, 小林幹, 時間遅れフィードバックを用いた確率過程の制御 - 理論的考察 -, 第57回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, pp. 1034-1035, 群馬, 2014年11月10~12日.
 - 【2】 小林幹, 安東弘泰, 遅れフィードバックを用いた確率過程の制御 - ナノ粒子系への応用に向けて -, 第57回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, pp. 1019-1020, 群馬, 2014年11月10~12日.
 - 【3】 安東弘泰, 小林幹, 時間遅れフィードバックを用いた確率過程の制御 - 制御法と解析 -, 日本物理学会, 2015年年次大会, 東京, 2015年3月21~24日.

【4】小林幹，安東弘泰，時間遅れフィードバックを用いた確率過程の制御－ナノシステムへの応用に向けて－，日本物理学会，2015 年年次大会，東京，2015 年 3 月 21～24 日．

◆ その他：

【招待講演】H. Ando, Control of stochastic processes by time delayed feedback and its application, in Conference on Nonlinear Systems and Dynamics CNSD15, IISER Mohali インド(2015 年 3 月 13 日)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

コンピュータ委員（社会工学類、社会工学専攻）

4. 学外の社会貢献

◆ 高大連携

米軍子弟への研究室紹介

小山高専大学院説明会補助

氏 名	生稲史彦	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻／サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	開発マネジメント、技術経営 (MOT)、イノベーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営学、マネジメント実習

大学院 技術経営、ビジネス戦略—理論と実践

◆ 指導学生数：

学類 2名

大学院 10名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（基盤研究(C)）「IT ベース・イノベーションを実現する企業経営の実証研究」（課題番号：26380498）（研究代表者）

科学研究費補助金（基盤研究(B)）「京都ものづくり企業のソーシャルキャピタルとブランド生成の調査分析」（課題番号：26285093）（研究分担者）

グローバルビジネスリサーチセンター オンライン・ソフトウェア研究会幹事

グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツビジネス研究会幹事

グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事

◆ 著書・論文等：

1. Ikuine, F. and Fujita, H. (2014). How to avoid fork: The guardians of Denshin 8 Go. *Annals of Business Administrative Science*, 13, 283-298. doi: 10.7880/abas.13.283 (with Hideki Fujita)

◆ 学会発表等：

1. Ikuine, F. and Fujita, H.(2014). How to avoid fork: The case of “Denshin 8 go”. ABAS Conference 2014 Spring, 22th May 2014, GBRC, Tokyo.

2. 生稲史彦, 原泰史(2014)「コンテンツ政策のイノベーション—社会実験としての「アニメミライ」—」一橋大学イノベーション研究センター『IIR サマ

ースクール 2014』, 2014 年 8 月 28 日.

3. Ikuine, F. (2014). 「IT ベース・イノベーションが示唆する変化—ゲーム分野研究のプロポーザル—」 Thammasat Business School Business Research Center Seminar, *Business history in management studies: Lesson learned from Japan*, Sep 1st -2nd 2014, Thammasat University Bangkok Thailand.

4. Ikuine, F and Fujita, H.(2014). Peer motivated: The case of Yahoo! Chiebukuro. ABAS Conference 2014 November, 28th May 2014, GBRC, Tokyo.

5. 生稲史彦(2014)「経済・経営学におけるケイパビリティ研究—組織能力の紹介を踏まえた、サービス・ケイパビリティの展望—」サービス学会 サービス・ケイパビリティに関する Special Interest Group 研究会, 2015 年 1 月 16 日, 東京大学.

◆ その他 :

1. IIR サマースクール 2014 研究発表優秀賞, 2014 年 8 月 28 日.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会システム情報研究科 修士論文委員
社会工学類 FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 非常勤講師
東京大学 経済学部 非常勤講師 (情報経営論)

氏 名	石井健一	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会学専攻 専任		
担当学類	社会学類 専任		
研究分野	社会心理学、情報社会論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：文化行動論(社会学類)、社会調査実習(社会学類)、消費者行動論(社会学専攻)
- ◆ 指導学生数：大学院 6 名、学類 5 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費（基盤 B）代表者
- ◆ 著書・論文等：
 1. Nation brand personality and product evaluation among Japanese people: Implications for nation branding, Place Branding and Public Diplomacy, 11: 51-64. (Kenichi Ishii & Satoshi Watanabe, 筆頭筆者), 2015 年.
 2. Facebook 利用者の日米台比較—個人情報の開示とネットワークの同質性を中心に一、情報通信学会誌、31(4) pp.39-50, 2014 年.
 3. 韓国と台湾における「日本」イメージの比較—国家ブランディング調査から、東亜、562、 pp.78-91、 2014 年（小針進；渡邊聡と共著）.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ Mobile Media & Communication（Sage Publications）Editorial Board Member
- ◆ Journalism and Mass Communication Quarterly（Sage Publications）

Editorial Board Member

- ◆ 情報通信学会 研究企画委員

氏名	石川竜一郎	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ゲーム理論、実験経済学、金融経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：サバティカルのため担当なし
- ◆ 指導学生数：
社会システム・マネジメント専攻：2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 基盤研究 (B)：帰納的学習による意思決定理論の構築と資産取引実験への応用、研究代表者。
 - 挑戦的萌芽研究：会計制度に起因する金融危機波及に関する研究：理論と実験、研究代表者。
 - 戦的萌芽研究：公共施設配置における住民投票の意義 - 投票制度は経済効率をどの程度悪化させるのか、研究分担者
 - 公益財団法人野村財団研究者海外派遣助成：資産価格バブルの発生メカニズムの行動モデルの構築。
 - 大阪産業大学共同研究プロジェクト、研究分担者。
- ◆ 著書・論文等：
 - Eizo Akiyama, Nobuyuki Hanaki, and Ryuichiro Ishikawa, (2015) “It is not just confusion! Strategic uncertainty in an experimental asset market,” forthcoming in *the Economic Journal* (EJ Feature: Behavioural Financial Markets).
 - Hironori Tsuruzono, Yoichiro Fujii, Tatsuya Goto, Yoshinori Hattori, and Ryuichiro Ishikawa, (2015) “Heterogeneous Information in Experimental Asset Markets,” forthcoming in *Annual Research Bulletin of Osaka Sangyo*

University.

- Eizo Akiyama, Nobuyuki Hanaki, and Ryuichiro Ishikawa, (2014) “How do experienced traders respond to inflows of inexperienced traders? An experimental analysis,” *Journal of Economic Dynamics & Control*, Vol. 45, 1-18.

◆ 学会発表等：

- Interdisciplinary Workshop Game Theory at UC Davis, University of California, Davis, USA, 2014年4月25日.
- 14th SAET Conference on Current Trends in Economics, Waseda University, Japan, 2014年8月20日.
- UCDavis Theory brown bag seminar, University of California, Davis, USA, 2014年10月30日.
- UCDavis Theory seminar, University of California, Davis, USA, 2014年11月25日.

◆ その他：

- 論文査読：International Economic Review, Review of Economics of the Household

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
サバティカルのためなし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
サバティカルのためなし

4. 学外の社会貢献

- ◆ 14th SAET Conference on Current Trends in Economics, Local Organizer Committee.

氏名	石田 東生	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	土木計画学・交通工学 土木環境システム		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン策定実習
社会基盤と国土
大学院 社会基盤計画学

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人
社会システム工学専攻 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究(B) 「交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開」(代表)
2. 交通関連ビッグデータの社会への実装研究小委員会委員(土木学会)

◆ 著書・論文等：

査読付学術論文

- ・一丸 結夢・石田 東生・岡本 直久：橋梁および高速道路上の横断構造物に対する維持管理の実態と課題，土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol. 70, No. 5 (土木計画学研究・論文集 Vol. 28) , I-45 頁～I-54 頁，2014年12月
- ・福田 大輔・洪 子涵・岡本 直久・石田 東生：都市高速道路における交通状態推定問題およびセンサー配置問題に対するデータ同化アプローチ，土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol. 70, No. 5 (土木計画学研究・論文集 Vol. 28) , I-1041 頁～I-1050 頁，2014年12月
- ・谷口 綾子・宮川 雄貴・石田 東生：地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える影響の検証ーかしてつバス導入時の事例ー，土木学会論文集 H

(教育) /70(1)/pp.54-64, 2014

著書

- ・ 花ひらく！「道の駅」新時代ー進化しつづける地域創生の拠点ー、中央公論 2015年4月号/pp.234-239, 2015-03
- ・ 新たな国土計画と第二の矢、第三の矢への反映、国土強靱化 日本を強くしなやかに 2015年版/pp.55-73, 2015-03
- ・ これからの交通政策とビッグデータ、運輸政策研究/pp.75-77, 2014-10
- ・ 道路交通社会の明るい未来へ～H I D O の 30 年とこれから～、季刊・道路新産業 AUTUMN2014№107 TRAFFIC&BUSINESS/pp.6-19, 2014-10
- ・ 道の駅 20 年、観光、地域連携など多彩な役割、旅行読売 /pp.167-167, 2014-11
- ・ 都市調査の高度化への期待、都市と交通 通巻 98 号/pp.1-1, 2014-10
- ・ 人に、街に、環境に優しい交通、開発こうほう/pp.1-3, 2014-09
- ・ 交通政策の進化と交通調査・ビッグデータ、JR 経営情報 №255 2014 年 5 月 2 日/pp.3-5, 2013-05

◆ 学会発表等：

- ・ 高橋一貴，石田東生，岡本直久：高齢者の生活を豊かにするための手段としての超小型モビリティの利用可能性に関する研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.49，CD-ROM 講演番号：32，2014年6月
- ・ 森川裕貴，石田東生，岡本直久：時系列データにもとづいた地域鉄道の維持に関する考察，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.49，CD-ROM 講演番号：168，2014年6月
- ・ 小磯和紀，岡本直久，石田東生：パーソントリップ調査のデータを用いた時刻別滞留人口推計に向けた基礎的研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.50，CD-ROM 講演番号：223，2014年11月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
教育企画室アドバイザー、体育センター運営委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献

- ・ GPS を利用した観光行動の調査分析に関するワーキンググループ：観光庁：委員
- ・ Eastern Asia Society for Transportation Studies：理事
- ・ 一般財団法人日本モビリティ・マネジメント会議：代表理事
- ・ NPO 法人日本風景街道コミュニティ：代表理事
- ・ 一般財団法人日本みち研究所：代表理事
- ・ 次期交道路交通センサスに関する検討委員会：一般財団法人計量計画研究所（国土交通省受託事業）：委員長
- ・ 道路空間高度化研究会：一般財団法人日本みち研究所：委員長
- ・ 政府調達苦情検討委員会：内閣府：専門委員
- ・ かしてつバスネットワーク会議：石岡市 及び 小美玉市：アドバイザー
- ・ 高速道路の料金制度に関する研究委員会：公益財団法人高速道路調査会：委員
- ・ つくば市環境都市推進委員会：つくば市環境都市推進室：委員
- ・ 「モバイル・ビックデータによる交通情報革命に関する調査」検討委員会：一般財団法人運輸政策研究機構：委員長
- ・ 茨城県総合計画審議会：茨城県：委員
- ・ 高架下利用計画等検討会：独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構：委員
- ・ 「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム委員会」：文部科学省 高等教育局：ペーパーレフェリー
- ・ 東京直結鉄道茨城県西南部延伸整備検討調査委員会：一般財団法人運輸政策研究機構：委員
- ・ 観光地域ブランド確立支援事業等検討会：国土交通省観光庁 観光地域振興部：委員
- ・ 北海道開発の将来展望に関する有識者懇談会：国土交通省北海道局：委員
- ・ 道路空間委員会：一般財団法人国土技術研究センター：座長
- ・ シーニックバイウェイ北海道のルート審査委員会：シーニックバイウェイ北海道推進協議会・委員

氏名	糸井川 栄一		職名	教授
専攻(博士後期課程)	リスク工学専攻 社会工学専攻		専任	兼任
専攻(博士前期課程)	リスク工学専攻 社会工学専攻		専任	兼任
担当学類	専	社会工学類	兼	なし
研究分野	都市災害リスク管理、地域安全計画			

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 II／都市計画実習／都市防災計画／都市計画事例講義および演習

大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／リスク工学専攻前期課程 8人／リスク工学専攻後期課程 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

(1) 奨学寄付金：一般財団法人 民間都市開発推進機構，東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究—茨城県大洗町を事例に—（代表）

(2) 受託研究：神栖市，神栖市津波避難行動改善作戦（代表）

◆ 著書・論文等：

(1) 梅本通孝，糸井川 栄一，太田尚孝，茨城県神栖市におけるL2津波想定と住民アンケートに基づく津波避難リスクの評価，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.24，pp. 73-82，2014

(2) 齋藤愛美，梅本通孝，糸井川 栄一，太田尚孝，自主防災活動の実質化と持続性に着目した評価要因の抽出，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.24，pp. 91-100，2014

(3) 梅本通孝，糸井川 栄一，太田尚孝，住民アンケートに基づく避難行動特性を考慮した津波避難リスク評価の試み，都市計画学会論文集

No.49-3, 日本都市計画学会, pp. 327-332, 2014

◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績

- (1) 糸井川栄一, 韓 海燕, 梅本通孝, 太田尚孝, 津波避難時における小学校と地域の連携可能性－茨城県神栖市を対象として－, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, 地域安全学会, No.3, pp.17-20, 2014
- (2) 糸井川栄一, マルチハザード下の広域避難, 日本建築学会大会(近畿)、防火部門パネルディスカッション資料, pp.1-2, 2014

3. 学内運営

◆ 系や全学組織等の業務への貢献：

理工学群副学群長

全学入学試験検討タスクフォース／全学免除等選考委員会

システム情報系研究者倫理検討委員会／システム情報系技術職員委員会

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：

社会工学類 就職委員会委員長(～9月末)

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員／GP アクション委員会委員
長／大塚キャンパス対策委員会委員／施設委員会委員／予算委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動(役員/委員、論文査読等)、学外から委嘱された委員、兼業など.

- (1) 科学技術振興機構「科学技術戦略推進費評価作業部会」委員(2014)
- (2) 地域安全学会 理事／副会長／査読
- (3) 日本建築学会 防火本委員会 委員／広域避難小委員会主査／査読
- (4) 日本都市計画学会 査読
- (5) 国土交通省 「建築防火基準委員会」委員(2011～)
- (6) 独立行政法人建築研究所 客員研究員(2008～)
- (7) 東京消防庁「第21期火災予防審議会」委員・地震防災部会長(2013～)
- (8) 茨城県 「茨城県地域防災計画改定委員会」委員(2011～)
- (9) 神栖市 「神栖市総合計画進捗状況評価会議」委員(2014～)
- (10) 神栖市 津波避難訓練講師(2013～)
- (11) 鹿嶋市 「鹿嶋市学校防災教育推進委員会」委員長(2012～)
- (12) 公益財団法人 東京防災救急協会 調査研究専門委員(2004～)
- (13) 国際航業株式会社 地震火災時における消防力を考慮した被害軽減対

策に関する調査研究委員会」委員長(2014)

(14) 株式会社 イオタ 「地域防災学習交流会：災害時要援護者への対策」
講師(2013～)

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻(博士前期課程)	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類		
研究分野	データマイニング，統計科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学／統計 I/ 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習（分担）/社会システム工学特別演習 I（分担）/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/特定課題研究(分担)

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

リスク工学専攻博士前期課程：6人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「多次元クラスター尺度構成法によるビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

2. 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A))

「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（分担）

3. 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))

「高次元データの理論と方法論の総合的研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

(1) M. Sato-Ilic, P. Ilic, On A Multidimensional Cluster Scaling, Procedia Computer Sciences, Elsevier, Vol. 36, pp. 278-284, 2014

- (2) M. Sato-Ilic, Universal Fuzzy Clustering Model, IEEE World Congress on Computational Intelligence, pp. 2071-2078, 2014
- (3) T. Hatori, M. Sato-Ilic, A Fuzzy Clustering Method using the Relative Structure of the Belongingness of Objects to Clusters, Procedia Computer Sciences, Elsevier, Vol. 35, pp. 994-1002, 2014
- (4) T. Hatori, M. Sato-Ilic, A Fuzzy Clustering Method for Multi Source Data, Workshop on Statistical Methods for Large Complex Data, pp. 35-44, 2014
- (5) T. Yamamoto, M. Sato-Ilic, A Method for Interpreting Principle Components using Discrimination Information and Its Application to EEG Data, Workshop on Statistical Methods for Large Complex Data, pp. 45-51, 2014
- (6) イリチュ美佳, 高木英明, ビジネスデータの線形回帰モデル (第8章), サービスサイエンスことはじめ - 数理モデルとデータ分析によるイノベーション -, 高木英明 編著, 筑波大学出版会, 2014
- (7) M. Sato-Ilic, Fuzzy Correlational Direction Multidimensional Scaling, Advances in Intelligent Systems and Computing, V. Emilia Balas, L. C. Jain, and B. Kovacevic (eds.), Springer, 2015 (in press)
- (8) M. Sato-Ilic, Fuzzy Data Analysis (chapter 9), Computational Intelligence, H. Ishibuchi (ed.), UNESCO-EOLSS, 2015 (in press)

◆ 学会発表等 :

基調講演・招待講演

- (1) M. Sato-Ilic, Clustering Innovations in Data Science, Complex Adaptive Systems 2014 Conference (CAS2014), 2014年11月4日, Philadelphia, USA, 2014 (基調講演)
- (2) M. Sato-Ilic, Clustering-based Models from Model-based Clustering, Invited talk at Department of Databases and Machine Learning, LIP6, University of Paris (UPMC), Paris, France in cooperation with the France chapter of the IEEE Computational Intelligence Society, 2014年9月11日, Paris, France (招待講演)

研究会発表

- (1) 陳嘉欣, イリチュ(佐藤)美佳, ラベル付き高次元小標本データに対するクラスター負荷量を考慮した変数選択法, 第10回筑波大学ソフトコンピュ

ーティング学域セミナー 研究会, 2015

◆ その他 :

(1) 1st Runner up Theoretical Paper Award, M. Sato-Ilic and P. Ilic, On A Multidimensional Cluster Scaling, Complex Adaptive Systems 2014 Conference (CAS2014), Philadelphia, USA, 2014年11月4日

(2) 2014 IEEE International Conference on Fuzzy Systems 功労賞, Recognition as Program Co-Chair for 2014 IEEE International Conference on Fuzzy Systems, The IEEE Computational Intelligence Society, Beijing, China, 2014年7月10日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

- ・ 全学入試実施委員会委員 (学類)
- ・ 学群入試実施委員会委員
- ・ セクハラ筑波キャンパス相談員
- ・ システム情報工学研究科技術職員委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

- ・ リスク工学専攻カリキュラム会委員長
- ・ リスク工学専攻 GP 達成度評価委員会委員
- ・ 社会工学類入試実施委員会委員長

4. 学外の社会貢献

海外学術誌編集業務 :

- ・ Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・ Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・ Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・ Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid

Intelligent Systems, IOS press, Netherlands

IEEE 等役員・委員：

- Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society
- IEEE Senior Member
- Co-Chair of Program Committee of the IEEE WCCI2014
- Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee

その他

- 日本統計学会代議員
- 日本分類学会幹事・運営委員
- 日本知能情報ファジィ学会理事
- 日本学術振興会科学研究費助成事業第1段審査委員

氏名	上市 秀雄	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定論, 認知心理学, 社会心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経済行動論／社会経済システム情報実習／社会工学における戦略的思考：理論，実験，および演習
大学院 消費者心理分析

◆ 指導学生数：

社会工学類 1名／社会工学専攻博士前期課程 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

感情，特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、裁判員制度参加意向に影響を及ぼす要因の解明、環境の全活動を促進・抑制する要因の解明など

◆ 著書・論文等：

1. 今井葉子・角谷拓・上市秀雄・高村典子（2014）. 市民の生態系サービスへの認知が保全行動意図に及ぼす影響：全国アンケートを用いた社会心理学的分析. 保全生態学研究, 15-26. (査読有)

◆ 学会発表等：

1. 上市秀雄・関沢洋一（2014）. 後悔喚起コミュニケーションが意思決定に及ぼす影響. 日本心理学会第78回大会発表論文集. 2AM-1-097. (査読有)
2. 室町祐輔・上市秀雄（2014）. 後悔対処メタ認知が後悔・対処法・適応的行動に及ぼす影響. 日本心理学会第78回大会発表論文集. 1EV-1-099. (査読有)
3. 織田弥生・上市秀雄・菊地賢一（2014）. 慢性ストレスの変化がコルチゾールリズムに与える影響：個人内変化による検討. 日本心理学会第78回大会発表論文集. 1AM-2-006. (査読有)

4. 今井葉子・上市秀雄・角谷拓・高村典子 (2014). 社会的規範が市民の環境保全行動に及ぼす影響:Web アンケートを用いた分析. 「野生生物と社会」学会第 20 回大会. P-7.

◆ その他：受賞

1. 日本心理学会第 78 回大会 学術大会優秀発表賞 受賞
2. 「野生生物と社会」学会第 20 回大会 ポスター賞 受賞

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学教育社会連携推進室委員，システム情報系倫理審査委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院予算委員，学類入試実施委員，学類就職委員，学類 4 年クラス担任，卒業論文梗概集作成委員

4. 学外の社会貢献

◆ 高大連携

茗溪学園高等学校 SS 研究・個人課題研究発表会 座長

◆ 学術論文査読

認知科学

日本リスク研究学会誌

氏名	牛島光一	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用ミクロ計量経済学、都市経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：統計Ⅱ、都市と環境の経済学、地域科学演習、公共政策論
- ◆ 指導学生数：主指導：学士1名、副指導：博士1名、修士4名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 研究スタート支援「医療政策・教育政策による人的資本蓄積のミクロ計量分析」
- ◆ 著書・論文等：

【1】**K. Ushijima**: The Impact of a Universal Health Scheme on Precautionary Savings: Evidence from Thailand, University of Tsukuba, Discussion Paper Series, No.1321, October 2014. (海外の学術誌へ投稿中)

【2】姜哲敏、太田充、**牛島光一**：大気環境が地価に与える影響—東京都特別区の地価データを用いた検証— (国内の学術誌へ投稿中)
- ◆ 学会発表等：

【1】「新たな貧困指標の定義:アルメニアの事例」、第9回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会、於 大阪府立大学、2015年3月18日。

【2】「子供の健康の評価と母親の教育水準の関係」、第26回 関西・開発ミクロ経済学研究会 (KDME)、於 龍谷大学、2015年2月13日。

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 修士論文委員
 - 数学プレースメントテスト委員

4. 学外の社会貢献

【1】 私立茗溪学園、「探求講座」講義、2014年8月30日、9月27日、10月4日。

【2】 埼玉県立不動岡高校、FreeEducation による特別講義（SSH 企画）、2014年12月20日。

氏名	梅本 通孝	職名	講師
専攻(博士後期課程)	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
専攻(博士前期課程)	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：社会工学実習／東京の都市学／都市防災計画／都市計画事例講義および実習／地域科学演習
- ◆ 指導学生数：

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究(C)）「沿岸地の防災と観光の両立に向けた住民・一時来訪者の津波避難のリスク評価と改善方策」（研究代表者）

公益財団法人旭硝子財団研究助成「液状化に関わる市街地整備のリスクマネジメントと都市計画技術のあり方に関する研究」（研究代表者）

一般財団法人都市開発推進機構 都市再生研究助成「東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究－茨城県大洗町を事例に」（共同研究者）
- ◆ 著書・論文等：

梅本通孝，糸井川栄一，太田尚孝，中野慎吾：茨城県神栖市におけるL2津波想定と住民アンケートに基づく津波避難リスクの評価，地域安全学会論文集，No.24，pp.73-82，2014.11.

齋藤愛美，梅本通孝，糸井川栄一，太田尚孝：自主防災活動の実質化と持続性に着目した評価要因の抽出，地域安全学会論文集，No.24，pp.91-100，2014.11.

梅本通孝，糸井川栄一，太田尚孝：住民アンケートに基づく避難行動特性を考慮した津波避難リスク評価の試み－茨城県神栖市におけるL2津波想定を

対象として一，都市計画論文集，Vol.49，No.3，pp.327-332，日本都市計画学会，2014.11.

梅本通孝：住宅用火災警報器の設置要因に関する構造分析—茨城県下 4 市の住民調査に基づいて一，日本建築学会計画系論文集，Vol.79，No.699，pp.1089-1097，2014.5.

◆ 学会発表等：

土方孝将，雨宮護，梅本通孝，糸井川栄一，太田尚孝：住宅侵入盗被害率と被害宅の未施錠率に基づく地区分類—茨城県下 5 市の市街地を対象として一，Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2014，p.48，2014.

梅本通孝：茨城県神栖市における津波避難の簡易的リスク評価，日本建築学会大会(近畿)，防火部門パネルディスカッション資料「マルチハザード下の広域避難とは」，pp.15-20，2014.

土方孝将，糸井川栄一，梅本通孝，太田尚孝，雨宮護，島田貴仁：住宅侵入盗被害傾向と被害宅未施錠傾向に関する研究—茨城県下の市街地を対象として一，環境心理学研究，Vol.2，No.1，p.30，環境心理学会，2014.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻 GP 実施委員会
 - リスク工学専攻 カリキュラム委員会 委員
 - リスク工学専攻 広報委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - 地域安全学会 理事
 - 日本自然災害学会編集委員会 委員
 - 日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員
 - 地域安全学会論文集 査読者
 - 日本建築学会論文集 査読者
 - 日本都市計画学会論文集 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員

東京消防庁火災予防審議会調査研究委員会 委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

茨城県守谷市行政改革推進委員会 委員

茨城県県民大学講座 講師

◆ 講演等

筑西市教育委員会学校防災研修会, 筑西市, 2015.2.20

平成 26 年度東京都地域防災学習交流会(後期) E コース, 小平市の
みち自治会, 2015.2.14

平成 26 年度東京都地域防災学習交流会(後期) E コース, 大田区田
園調布二丁目自治会, 2015.1.19

平成 26 年度東京都地域防災学習交流会(後期) E コース, 日野市日
鉦住宅地防災会, 2014.12.20

平成 26 年度東京都地域防災学習交流会(後期) E コース, 青梅市末
広町二丁目, 2014.12.13

平成 26 年度東京都地域防災学習交流会(後期) E コース, 文京区大
和郷会, 2014.11.29

平成 26 年度東京都地域防災学習交流会(後期) E コース, 世田谷区
祖師谷千歳台自治会, 2014.11.12

平成 26 年度茨城県・神栖市総合防災訓練津波防災講話(息栖小学
校高学年), 神栖市, 2014.8.30

平成 26 年度茨城県・神栖市総合防災訓練津波防災講話(息栖小学
校低学年), 神栖市, 2014.8.30

神栖市立太田小学校防災講演会, 神栖市, 2014.7.4

氏名	大久保 正勝	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 マクロ経済学、マクロ計量分析
 - 大学院 時系列解析、特定課題研究
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 1人／経営・政策科学専攻 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究 (B)「選好の異質性と消費保険のマイクロデータ分析」(研究代表者)
 - システム情報工学研究科 リサーチグループ (学域)「マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
 - Masakatsu Okubo (2015) “Earnings Dynamics and Profile Heterogeneity: Estimates from Japanese Panel Data,” *Japanese Economic Review*, Vol. 66, No. 1, pp. 112-146.
 - 宮崎智視、大久保正勝、釣雅雄 (2015) 「政府支出と民間消費の代替・補完関係－展望とパネル分析－」『経済研究』第66巻, 第2号, pp. 115-126.
- ◆ 学会発表等：
 - 日本経済学会秋季大会 (西南学院大学) “Model Uncertainty and International Differences in Risk Aversion”

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)： 修士論文・特定課題研究委員

氏名	大澤義明	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画, 地域科学, 社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 I/都市解析/都市計画マスタープラン策定実習/都市計画事例講義および実習/つくばの景観を考える/都市・地域・環境を探る I, II, III
大学院 都市地域解析学/公共インフラ設計/サービス工学特別講義IV

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人/社会システム工学専攻 2人/社会工学専攻 3人/社会システム・マネジメント専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1] 老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究. 基盤研究A. 研究代表者.

[2] 公共施設配置における住民投票の意義—投票制度は経済効率をどの程度悪化させるのか—. 挑戦的萌芽研究. 研究代表者.

[3] 筑波大学東日本大震災復興・再生支援プログラム, 若い世代のための被災地出張講義プロジェクト. 申請責任者.

[4] 戦略的イノベーション創造プログラム・道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究, 科学技術振興機構. 研究開発責任者.

◆ 著書・論文等：

[1] 盆子原歩, 小林隆史, 大澤義明 (2014) : 給油所過疎地域に関する数理的考察, 都市計画論文集, 49, pp.603-608.

◆ 学会発表等：

[1] 岡本ゆきえ, 小林隆史, 大澤義明 (2014) : 方向に着目した車窓景観分析. ホムレションズ・リサーチ学会 2014年秋季研究発表会, pp.88-89.

[2] 川岸卓司, 川口明子, 小林隆史, 大澤義明 (2014): 訪日外国人の訪問地多様性の測定～北海道を事例として. ホ°レシヨンス°・リサーチ学会 2014 年秋季研究発表会, pp.224-225.

[3] 大澤義明, 松枝千尋 (2014): インフラ施設廃止と住民投票－シャープレイ指数を用いた解析研究－第 28 回応用地域学会研究発表大会, (2014 年 11 月 30 日, 沖縄産業支援センター)

[4] 赤澤邦夫, 小林隆史, 大澤義明 (2015): 将来推計人口の精度検証－北関東 3 県を対象として－. ホ°レシヨンス°・リサーチ学会 2015 年春季研究発表会, pp.78-79.

[5] 張心笛, 大澤義明 (2015): 街路樹削減と緑視率低下との関係－ランダムな直線による分析－. ホ°レシヨンス°・リサーチ学会 2015 年春季研究発表会, pp.80-81.

◆ 学会賞

[1] 日本計画行政学会第 26 回学術賞・論文賞

◆ その他:

[1] 地方創成とまちづくり－科学的根拠と若い世代－ (2014 年 9 月 20 日, 日立市中小路交流センター)

[2] 国大協鹿行震災復興シンポジウム・オーガナイザー (2014 年 10 月 12 日, 潮来市公民館)

[3] まちづくりシンポジウム 2014 基調講演「若い世代と地方創生」, パネルディスカッションコーディネーター「人口減少時代のコンパクトなまちづくり」 (2014 年 11 月 22 日, 土浦市民会館小ホール)

[4] 平成 26 年度茨高教研進路指導部研究協議大会「高大連携と人材育成－まちづくりの視点－」 (2014 年 12 月 3 日, 茨城県教育研修センター)

[5] 常陸太田市合併 10 周年記念／平成 26 年度防災・再生シンポジウム・パネルディスカッションコーディネーター「人口減少時代における持続可能な地域づくり」 (2014 年 12 月 6 日, パルティホール)

[6] いわき市まちづくりシンポジウム・オーガナイザー (2015 年 1 月 31 日, いわき芸術文化交流館アリオス)

[7] 平成 26 年度巨大地震プロジェクト報告会「復旧から復興への道筋－自治体庁舎建設を通して－」 (2015 年 3 月 24 日, 筑波大学)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
教育社会連携推進室長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学域長，社会工学専攻長，社会システム・マネジメント専攻長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - [1] 応用地域学研究・編集長（応用地域学会）
 - [2] 日本都市計画学会・会長アドバイザー（日本都市計画学会）
 - [3] 日本オペレーションズ・リサーチ学会・代議員（日本オペレーションズ・リサーチ学会）
 - [4] 土木学会・技術推進機構・上席研究員（土木学会）
 - [5] 土木学会・アセットマネジメントシステム実証のための実践研究委員会・委員（土木学会）
- ◆ 自治体
 - [1] 茨城県リサイクル製品認定審査会・会長
 - [2] 新潟県教育委員会高校等再編整備計画策定外部有識者会議
 - [3] 土浦市公共施設跡地利活用方針策定委員会・委員長
 - [4] 土浦市公共事業再評価委員会・委員長
 - [5] 土浦市中心市街地活性化協議会・副委員長
 - [6] 石岡駅橋上化推進検討委員会・会長
 - [7] 石岡市都市計画審議会・副会長
 - [8] 石岡市景観調査委員
 - [9] つくば市ホテル等建設審議会・会長
 - [10] つくば市建築審査会・会長
 - [11] 水戸市景観調査委員
 - [12] 茨城県立土浦第一高等学校・評議員
 - [13] 学校法人茗溪学園・評議員
- ◆ 出張講義
 - [1] つくば秀英高等学校（2014年5月17日）
 - [2] 清真学園高等学校（2014年5月24日）

氏名	太田 充	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング実習／社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／社会システム工学専攻 1人／社会工学専攻 2人／社会システム・マネジメント専攻 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費補助金基盤研究(C)
「新たな集積効果関数を用いた都市一般均衡モデルの構築」(代表)
 2. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
「Radon 測度上の動的システムの研究と都市構造遷移モデルへの応用」(分担)
- ◆ 学会発表等：
 1. A Dynamic Extension of the Urban Spatial Equilibrium Model, 北米地域科学学会年次大会(アメリカ合衆国ワシントン D.C.)、2014/11/14.
 2. Relationship between urban population and utility level of workers, 応用地域学会(ARSC)第 28 回研究発表大会(沖縄県那覇市沖縄産業支援センター)、2014/11/29.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：
3 専攻合同予算委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 都市住宅学会監事, 都市住宅学会総務企画委員会副委員長

氏名	岡田 幸彦	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	会計学、サービス工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習／会計学概論／サービスの産業と組織

大学院 サービス会計／企業評価論／ビジネス戦略：理論と実践

特別講義 Financial and Management Accounting in Japan (カザフ経済大学博士後期課程大学院生に対する英語講義)

◆ 指導学生数：

学類 社会工学類 5人

大学院 社会システム工学専攻 5人／経営・政策科学専攻 3人／社会工学専攻社会工学学位プログラム(博士) 2人／社会工学専攻社会工学学位プログラム(修士) 1人／社会工学専攻サービス工学学位プログラム 5人

研究生 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE の設立 (2015年1月1日)。
- ・筑波大学リサーチユニット「サービス組織の経営学」研究代表者。
- ・筑波大学リサーチグループ「産学連携によるサービス組織の経営学」研究代表者。
- ・科研費(若手B)「わが国サービス企業における原価計算・原価管理の成功モデルに関する実証的研究」(2014~2016年度、総額377万円)研究代表者。
- ・奨学寄附金(日本経営)「会計工学教育研究の推進」(総額100万円)研究代表者。
- ・奨学寄附金(スポーツビズ)「企業のスポーツ政策価値に関する研究」(総額50万円)研究代表者。

◆ 著書・論文等：

- ・大江秋津・岩井良和・岡田幸彦(2016)「新興企業における実態に即したビジネスプランと黒字化との関係の実証研究」『組織科学』、49(3)。近刊、査読有
- ・Okada, Y. and N. Inamizu (2014) “Effect of job type on perspective index: A case of Mito Shinkin Bank,” *Annals of Business Administrative Science*, 13, pp.315-328.査読有
- ・荒井耕・尻無濱芳崇・岡田幸彦(2014)「医療法人における責任センター別損益業績管理による財務業績改善に関する検証—非営利組織での管理会計の有効性評価—」『会計プロGRESS』No.15、14-25頁。査読有
- ・岡田幸彦・堀智博(2014)「サービス原価企画の実態分析」『会計』第185巻第6号、82-94頁。招待学術論文
- ・Sano, Y. and Y. Okada (2015), *Empirical Analysis of Repurchasing in Educational Services: A Case Study in a Japanese Professional School*, NetSci-x2015, Proceedings, January, Brazil.査読有
- ・Nakamura, R., S. Otaka and Y. Okada (2014), *A Possibility to Obscure the Economic Substance of Point Alliance Programs*, Twenty-Sixth Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, Proceedings, October, Chinese Taipei.査読有
- ・高木英明編著(2014)『サービスサイエンスことはじめ：数理モデルとデータ分析によるイノベーション』筑波大学出版会。査読有

◆ 学会発表等： 多数

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター
 - ・システム情報工学研究科広報委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・社会工学commons検討委員会 委員
 - ・社会工学専攻等広報等委員会 委員長
 - ・社会工学類広報委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 情報・システム研究機構統計数理研究所 客員准教授
- ◆ 京都大学経営管理大学院など 非常勤講師

氏名	岡本 直久	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾・物流		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン策定実習／情報リテラシー・演習／社会基盤と国土
 大学院 社会基盤計画学／観光の科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費 基盤研究(B) 交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開 (研究分担者)
- ・ 委託研究費 戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究 (研究分担者)
- ・ 交通関連ビッグデータの社会への実装研究小委員会委員(土木学会)

◆ 著書・論文等：

査読付学術論文

- ・ 一丸 結夢・石田 東生・岡本 直久：橋梁および高速道路上の横断構造物に対する維持管理の実態と課題, 土木学会論文集 D3(土木計画学) Vol. 70, No. 5 (土木計画学研究・論文集 Vol. 28), I-45 頁～I-54 頁, 2014 年 12 月
- ・ 福田 大輔・洪 子涵・岡本 直久・石田 東生：都市高速道路における交通状態推定問題およびセンサー配置問題に対するデータ同化アプローチ, 土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol. 70, No. 5 (土木計画学研究・論文集 Vol. 28), I-1041 頁～I-1050 頁, 2014 年 12 月

- ◆ 学会発表等：
 - ・ 高橋一貴，石田東生，岡本直久：高齢者の生活を豊かにするための手段としての超小型モビリティの利用可能性に関する研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.49，CD-ROM 講演番号：32，2014年6月
 - ・ 森川裕貴，石田東生，岡本直久：時系列データにもとづいた地域鉄道の維持に関する考察，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.49，CD-ROM 講演番号：168，2014年6月
 - ・ 森川裕貴，岡本直久：地域鉄道の維持に関する考察-時系列データによる検討- 日本交通学会 2014年度研究報告会（第73回），2014年10月
 - ・ 小磯和紀，岡本直久，石田東生：パーソントリップ調査のデータを用いた時刻別滞留人口推計に向けた基礎的研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.50，CD-ROM 講演番号：223，2014年11月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 研究科入試実施委員会委員
 - つくばエコシティ推進グループ委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 カリキュラム委員，入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ GPS を利用した観光行動の調査分析に関するワーキンググループ：観光庁：委員
- ◆ 関東地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会：国土交通省関東地方整備局：委員
- ◆ 茨城県移動性・安全性向上委員会：国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所：委員長
- ◆ 茨城県公共事業再評価委員会：茨城県：委員
- ◆ 茨城県港湾審議会：茨城県：委員
- ◆ 京浜港物流高度化推進協議会 委員：財団法人 港湾空間高度化環境研究センター：委員
- ◆ 土浦市公共交通活性化協議会：土浦市：会長
- ◆ 牛久市地域公共交通会議：牛久市：副会長

- ◆ 取手市都市計画審議会：取手市：委員
- ◆ Eastern Asia Society for Transportation Studies：事務局幹事

氏名	奥島 真一郎	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会学専攻 専任		
担当学類	国際総合学類 専任、社会学類		
研究分野	環境経済学、政策分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会学類共通）/環境科学とリスクマネジメント（国際総合学類開講社会学類共通）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）/都市計画実習（社会学類開講国際総合学類共通）

大学院 公共政策論（社会学専攻）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 6人/社会学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（若手研究（B））（代表）

住友財団平成26年度環境研究助成（一般研究）（代表）

平成26年度筑波大学システム情報系若手融合プロジェクト（分担）

◆ 著書・論文等：

“What Are the Forces that Drive the Change in Energy Poverty? The Japanese Case” Proceedings of the 38th International Conference of the International Association for Energy Economics, forthcoming.

「「Beyond GDP」論とこれからの政策科学」『科学』、Vol. 84、No. 11、岩波書店、2014年11月、pp. 1142-1146.

“A Study of the Actual Conditions of Renewable Energy Use in the Japanese Municipalities”（共著）Proceedings of the 14th European Conference of the International Association for Energy Economics, October 2014.

“An Analysis of Energy Poverty in Japan: Evaluating its Potential Future”
The 4th Asian Conference of the International Association for Energy
Economics, September 2014.

◆ 学会発表等：

「家計の環境モラルを考慮したデマンドレスポンス手法：擬人化モデルによるアプローチ」(共同発表) 平成 27 年電気学会全国大会 (於：東京都市大学)、
2015 年 3 月 26 日 (平成 26 年度筑波大学システム情報系若手融合プロジェクトの研究成果) .

“A Study of the Actual Conditions of Renewable Energy Use in the
Japanese Municipalities” (共同発表) The 14th European Conference of the
International Association for Energy Economics, LUISS University of
Rome, Italy, October 31, 2014.

“An Analysis of Energy Poverty in Japan: Evaluating its Potential Future”
The 4th Asian Conference of the International Association for Energy
Economics, China University of Geoscience, Beijing, China, September 21,
2014.

◆ その他：

平成 26 年度筑波大学システム情報系教育貢献賞 (国際総合学類)

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

大学院カリキュラム委員

国際総合学類運営委員

国際総合学類カリキュラム委員

国際総合学類シス情 TA 担当委員

4. 学外の社会貢献

一橋大学経済研究所非常勤研究員

日本政策学生会議 (ISFJ) 論文審査員

筑波大学「若い世代のための被災地出前講義プロジェクト」講師

氏名	甲斐田 直子	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任 持続環境科学専攻 兼担		
専攻(博士前期課程)	持続環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	環境経済・政策学、環境配慮行動分析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市環境評価論／社工専門英語／社工専門英語別講／都市・地域・環境を探る II
大学院 Introduction to Environmental Policy／環境政策概論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1名／環境科学専攻 2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費（挑戦的萌芽研究）「環境配慮行動と充足感のポジティブな連鎖に関する縦断的研究」（代表）
科学研究費（基盤（B）海外学術調査研究課題）「マレーシア汚濁淡水源におけるエコゲノミクスを用いた浄水処理障害微生物の実態調査」（分担）
特別研究促進費「近年成長が著しい国における学術政策、大学政策、学校教育を通じた人材育成政策に関する調査研究」（連携研究者）
- ◆ 著書・論文等：
Kaida, N., & Kaida, K. (2015). Facilitating pro-environmental behavior: The role of constructive pessimism and anthropocentric environmental values. *Social Indicators Research* (Accepted 11 March 2015. Advance online publication). doi: 10.1007/s11205-015-0943-4
Kaida, N., & Dang, N.A. (2015). Tourist activities and conservation preferences in Nha Trang Bay Marine Protected Area, Viet Nam. *TROPICS* (Accepted 9 February 2015).

Kaida, N., & Kaida, K. (2015). Explaining pro-environmental behavior: Relationships with universalism, intrinsic satisfaction, and present and future subjective well-being. *Environment, Development and Sustainability* (Accepted 2 February 2015. Advance online publication). doi: 10.1007/s10668-015-9629-y

Miah, M.T., & Kaida, N. (2015). Evaluating potential benefits of welfare packages for development-induced involuntary resettlement in Bangladesh. *Journal of Sustainable Development*, 8(1), 203-217. doi: 10.5539/jsd.v8n1p203

Kaida, N., & Kaida, K. (2014). Spillover effect of congestion charging on pro-environmental behavior. *Environment, Development and Sustainability* (Accepted 29 May 2014. Advance online publication). doi: 10.1007/s10668-014-9550-9

◆ 学会発表等：

甲斐田直子，国際環境協力の構造変化：新たな課題と可能性．国際開発学会全国大会，千葉大学，2014年11月．

甲斐田直子，環境配慮行動と主観的幸福感の構造的関係性に関する実証的検討．環境科学会，つくば国際会議場，2014年9月．

甲斐田直子，住区・市に対する地域愛着と環境配慮行動の関係．環境経済・政策学会2014年大会，法政大学，2014年9月．

Kaida, N. (2014). Effect of perceived effectiveness and efficiency of pro-environmental behavior on facilitating the behaviors and happiness. *East Asian Association of Environmental and Resource Economics 2014 Inter-congress Conference*, December 8, 2014, Jakarta.

Kaida, N., & Kaida, K. (2014). Structural associations of pro-environmental behavior and present and future subjective well-being, *European Conference on Positive Psychology*, July 1-4, 2014, Amsterdam.

◆ その他：

Kaida, N. (2014). What facilitates pro-environmental behavior? Findings on subjective well-being and place attachment. *MJIIT-Tsukuba Joint Symposium on Biomass, Bioenergy and Water Environment for Development of Sustainable Society*, October 30-31, 2014, Kuala Lumpur.

Kaida, N. (2015). Developments in the global environmental policy

network in Japan: A comparative study of Japan, Korea and US. 辻中豊 (編著)平成 24-25 年度地球温暖化への取り組みに関する調査報告書, 筑波大学, pp. 133-146.

Kaida, N. (2015). Developments in the global environmental policy network in Japan: A comparative study of Japan, Korea and US. 辻中豊 (編著)平成 24-25 年度地球温暖化への取り組みに関する調査報告書, 筑波大学, pp. 133-146.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類：障害学生支援委員会、教育図書委員会、スポーツデー委員会
社会工学専攻：広報オリエンテーション委員会
環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、JDS 委員会、
共同学位プログラム検討 WG

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員
- ◆ 茨城県鹿島市立平井小学校学校地域防災力強化委員会
- ◆ 岡山県立岡山城東高校学類研修講義（2014年6月）

氏名	金澤 雄一郎	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学（ノンパラメトリック回帰関数・密度関数推定論、欠損値の解析）・経済学（新実証産業組織論・需要解析）・経営科学（組織行動論・マーケティングサイエンス）・計量犯罪学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：データ解析・社会工学専門英語

大学院：統計解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 人／社会工学専攻 2 名／社会システム工学専攻 2 人/社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

以下の 3 つの科学研究費補助金その他に基づき研究活動を行った。

1. ベイズ理論を用いた MS-AIDS モデルの推定法・モデル選択法の提案とその応用. 日本学術振興会科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 No. 25590051 (研究代表者)
2. 看護行動研究への組織心理学的アプローチ. 日本学術振興会科学研究費補助金(B) No. 23330120 (研究分担者)
3. 女子受刑者の刑務所内の反則行為に対する個人及び環境要因の相互作用に関する研究. 日本学術振興会科学研究費補助金(C) No. 23530898 (研究分担者)

◆ 著書・論文等：

1. Estimating the Markov-Switching Almost Ideal Demand Systems: A Bayesian Approach. Empirical Economics, Vol. 47 (4): 1193-1220. December, 2014. DOI 10.1007/s00181-013-0777-3. 0.628 Impact Factor in 2013.
2. Are manufacturers' efforts to improve their brands' reputation really

rewarded? The case of Japanese yogurt market. Discussion Paper Series No. 1316. Division of Policy and Planning Sciences, Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba. pp.1-38

◆ 学会発表等：

1. “Are manufacturers’ efforts to improve their brands’ reputation really rewarded? The case of Japanese yogurt market” 第16回ノンパラメトリック統計解析とベイズ統計" 3月25日（月）～26日（水），慶応義塾大学日吉キャンパス協生館5Fエグゼクティブセミナールーム
2. Are manufacturers’ efforts to improve their brands’ reputation really rewarded? The case of Japanese yogurt market” 京都大学数理解析研究所RIMS共同研究会" New Advances in Statistical Inference and Its Related Topics," 3月9日（月）～11日（水），京都大学数理解析研究所
3. “Evaluating the Effects of the Rehabilitative Program for Sex Offenders in Japanese Prisons,” American Society of Criminology Annual Meeting, November 18th -22nd, San Francisco Marriott, San Francisco, U.S.A.
4. “When nurses become emotionally attached to hospitals: Roles of trust and job satisfaction,” 26th Annual Convention of the Association for Psychological Science, May 22nd-25th, 2014, San Francisco Hilton, San Francisco, U.S.A.
5. “Estimating the Markov-switching almost ideal demand systems: a Bayesian approach,” The 2014 ISBA-George Box Research Workshop on Frontiers of Statistics
May 21st-22nd, 2014, The George Washington University,
Washington, U.S.A.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

（システム情報系）

システム情報系戦略室委員

システム情報系国際化推進委員会委員

（全学組織）

グローバルコモンズジェネラル運営委員会委員

グローバルコモンズ教育部門会議委員

国際室委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
就職委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 1. 独立行政法人日本学術振興会
成果公開部会社会科学系小委員会
- ◆ 2. JABEE（日本技術者教育認定機構）認定工学（融合複合・新領域）分野
審査員、
- ◆ 3. 東京大学教養学部広域科学科・広域システム科学系客員教授
- ◆ Reviewer: Mathematical Reviews

氏名	川村 大伸	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	経営工学, 品質管理, 応用統計学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - (学類) フレッシュマンセミナー, プログラミング実習, 生産・品質管理
 - (大学院) 生産・品質管理, 特定課題研究
- ◆ 指導学生数：
 - (社会工学類) 4名
 - (経営・政策科学専攻) 5名
 - (社会工学専攻) 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - [1] 科学研究費 基盤研究 (C) 「ヘルスケアにおける統計的データ解析に基づいたケアプラン作成支援」(分担)
 - [2] 科学研究費 若手研究 (B) 「半導体製造工程における統計的工程管理」(代表)
 - [3] 受託研究 (株式会社サイゼリヤ) 「ファミリーレストランにおける調理工程の効率化に関する学術指導」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] 東出政信, 仁科健, 川村大伸 (2014): “半導体製造工程における T²-Q 管理図の実践：変動の大きさの管理から変動パターンの管理へ”, 「品質」, 44, [3], 341-350.
 - [2] Yosuke Takada, Hironobu Kawamura (2014): “Industrial Engineering Applications in Japanese-Style Inns”, Proceedings of the 1st East Asia Workshop on Industrial Engineering, USB Memory.
 - [3] 川村大伸 (2014): “第 30 回 FMES シンポジウムルポ「ビッグデータ利活

用と価値創造」,「オペレーションズ・リサーチ : 経営の科学」, 59, [10], 631-632.

[4] 川村大伸 (2014) : “半導体製造におけるプロセス管理”,「品質」, 44, [3], 276-279.

◆ 学会発表等 :

[1] 荒川智弘, 川村大伸 (2014) : “サービス・ドミナント・ロジック視点における宅配サービスの分析”, 日本品質管理学会第 44 回年次大会研究発表要旨集, 55-58.

[2] 岡本康佑, 東出政信, 高橋達也, 仁科健, 川村大伸 (2014) : “変数間の因果のモニタリングと異常診断”, 日本品質管理学会第 44 回年次大会研究発表要旨集, 67-70.

[3] 川村大伸, 野本圭介 (2015) : “需要予測を用いた在庫管理”, 日本経営工学会産学交流ワークショップ.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

[1] (学類) カリキュラム委員会 委員

[2] (学類) 1 年クラス担任

[3] (専攻) 修士論文委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 日本品質管理学会 論文誌編集委員会 委員

◆ 日本経営工学会 生産・物流部門役員会 幹事

◆ ISO/TC69/SC4 国内委員会 委員

◆ 管理図 JIS 原案作成委員会 委員

◆ (財)日本規格協会 通信講座による品質管理中級コース教材作成委員会 委員

◆ (財)海外産業人材育成協会 セミナー講師

◆ 東京理科大学 非常勤講師

◆ 論文査読

査読付論文誌 :

International Journal of Production Research

Journal of Japan Industrial Management Association

Innovation and Supply Chain Management

Total Quality Science

品質

査読付国際会議録：

Proceedings of the 12th ANQ Congress

- ◆ オープンキャンパスにおける模擬講義「経営工学における研究と身につく技術」

氏 名	岸本一男	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理工学, 数理ファイナンス, 数理政治学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理解析, 微積分1, 経営の科学1 (総合科目), 専門英語
大学院 金融・デリバティブ

◆ 指導学生数：

社会工学類 1名, 社会システム工学 2名, 社会工学 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費基盤研究 (C) 「原理政党」存在下での空間的投票理論とその実証
数理ファイナンス, 数理政治, 選挙データ作成等を行った.

著書・論文等：名取他：参議院議員通常選挙データベースの開発と応用, 選挙
研究, 30-2(2014), pp.105-115

岸本一男：国勢調査 (1940年) 市区町村別データベースの作成について, 筑波
大学多目的データバンク年報, No.92(2015), pp.1-5.

岸本一男：10編の論文に係わるデータのバージョン管理について, 筑波大学多
目的データバンク年報, No.92(2015), pp.7-9.

◆ 学会発表等：岸本一男：原理党存在下での2次元平面上の3政党ナッシュ均
衡解について, 日本選挙学会年会 2014年5月18日 (早稲田大学)

佐藤達己・岸本一男：我が国国政選挙の政党別得票率の要因分析：都道府県別
集計と市区町村別集計との比較, 日本応用数理学会年会 2014年9月4日

岸本一男：空間的投票理論への1コメント, 日本応用数理学会数理政治研究部
会 2014年12月20日 (政策研究大学院大学)

佐藤達己・岸本一男：我が国国政選挙における得票構造の分析, 日本応用数
理学会数理

政治研究部会 2015 年 2 月 26 日

岸本一男：空間的投票理論への 1 コメント，日本応用数理学会春の研究部会連
合発表会

2015 年 3 月 6 日（明治大学）

朱麗枚，岸本 一男：大証日経平均先物の日中取引時間間隔の分布に関する研究，
日本応用数理学会春の研究部会連合発表会 2015 年 3 月 7 日（明治大学）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科コンプライアンス委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻大学院入試実施委員
社会工学類運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 応用数理学会選挙管理委員長
- ◆ 応用数理学会数理政治研究部会幹事
- ◆ JSIAM Letters 編集委員
- ◆ 電子情報通信学会査読委員
- ◆ 東京大学社会科学研究所諮問委員

氏名	木島 陽子	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会学専攻 専任		
担当学類	社会学類 専任		
研究分野	開発経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 国際開発論／経済学入門 III／経済政策分析／社会学実習
大学院前期課程 国際開発論

◆ 指導学生数：

社会学類 1人／社会学システム工学専攻 4人／経営政策科学専攻 2人
社会学システム・マネジメント専攻 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤 A (海外学術調査)「サブサハラアフリカのコム生産拡大に関する実証研究」(分担)

科学研究費 基盤 A「市場制度の発達に関する比較経済発展史的研究：アフリカの米を例にして」(分担)

◆ 著書・論文等：

1. Masao Kikuchi, Yoko Kijima, Yusuke Haneishi, and Tatsushi Tsuboi (2014) "A Brief Appraisal of Rice Production Statistics in Uganda" *Tropical Agriculture and Development* 58(2): 78-84.

2. Yoko Kijima (2015) "On the Possibility of Rice Green Revolution in Rainfed Areas in Uganda: Impact Evaluation of a Management Training Program and Guidebook Distribution", In *Pursuit of an African Green Revolution: Views from Rice and Maize Farmers' Fields*, edited by Keijiro Otsuka and Donald Larson. Amsterdam, Netherlands: Springer. (Chapter 4)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学ハラスメント防止対策委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類：FD 委員会委員長
SSM：FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 出張講義（久慈高校）

氏名	倉田 久	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	サプライチェーン・マネジメント、オペレーションズ・マネジメント		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類科目：経営工学概論／経営情報システム
 - 大学院科目：サプライチェーン・マネジメント
- ◆ 指導学生数：
 - 学類 4 年生 4 名、経営・政策科学専攻 2 年生 4 名、社会工学専攻博士前期課程(社会工学学位プログラム)1 名、研究生 1 名
- ◆ 指導学生の受賞：
 - 経営・政策科学専攻「特定課題研究優秀グループ表彰」 2014 年 3 月 25 日

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 研究代表者：科学研究費補助金 基盤研究 (C)・26350413.
- ◆ 著書・論文等：
 - [Journal publication, 査読有]
 - 1. Kurata, Hisashi, (2014), “How does inventory pooling work when product availability influences customers’ purchasing decisions?” *International Journal of Production Research*, 52(22), 6739-6759.
 - [Conference proceedings, 査読有]
 - 2. Hisashi Kurata & Berdymyrat Ovezmyradov (2014), “Stockout management: how does customers’ brand and store loyalty influence supply chain performance?” Conference proceedings of Decision Sciences Institute (DSI) annual meeting 2014, Tampa, FL, USA on November 22-25, 2014.

3. Hisashi Kurata, (2014), “Effect of Purchasing Size Variability on Inventory Performance: Do More Customers Buy Less or Do Fewer Customers Buy More?” Conference proceedings of the Asia-Pacific Decision Sciences Institute (APDSI) 2014 conference at Yokohama National University, Yokohama, Japan on July 18-22, 2014.

[Text chapter publication、査読有]

4. 岡田幸彦、倉田久、生稲史彦著、「第10章『成功するサービスのアート』」, 高木英明編著、「サービスサイエンスことはじめ - 数理モデルとデータ分析によることはじめ」, 筑波大学出版会, 2014年(ISBN978-4-904074-30-5). サービス科学のオムニバス本に一つの章の共著者として参加.

5. Hisashi Kurata and Seong-Hyun Nam, (2014), “Freshness Management in the Retail Business,” In John Wang (Ed.) Encyclopedia of Business Analytics and Optimization (5 Volumes) pp.960-977, IGI Global, Hershey: PA. (ISBN-13: 978-1466652026)

◆ 学会発表等 :

1. “Stockout management: how does customers’ brand and store loyalty influence supply chain performance?” Presented with Berdymurad Ovezmuradov (University of Tsukuba) at the Decision Science Institute (DSI) 45th annual meeting in Tampa, FL, on November 22, 2014.

2. “How do customers’ responses to product unavailability compensate the negative effect of double marginalization?” Presented with Berdymurad Ovezmuradov (University of Tsukuba) at the 1st East Asia Workshop on Industrial Engineering (EAWIE, 第1回東アジアIEワークショップ) at Hiroshima University, on November 9, 2014.

3. “Effect of Purchasing Size Variability on Inventory Performance: Do More Customers Buy Less or Do Fewer Customers Buy More?” Presented at the 19th Asia-Pacific Decision Sciences Institute conference (APDSI) 2014 in Yokohama, Japan, on July 22, 2014.

4. “Can customers’ active search for unavailable products replace a supply chain contract? – Numerical approach” Presented at the 19th Asia-Pacific Decision Sciences Institute conference (APDSI) 2014 in Yokohama, Japan, on July 22, 2014.

注 : APDSI 国際大会 (会場 : 横浜国立大学) では同日に 2 つの発表を行う。

5. “Designing a base product and its peripherals when a firm faces the feature fatigue effect” Presented at the Japan Industrial Management Association (JIMA) conference Spring 2014 (日本経営工学会 平成 26 年春季研究大会), at Tokyo University of Science, Noda campus (東京理科大学野田キャンパス), on May 18, 2014.

6. “A Base Product and Optional Part Design when Consumers Prefer a Product with Unnecessary Features.” Presented at the POMS 25th annual meeting in Atlanta, GA, on May 9, 2014.

◆ その他 :

招待講演

“Introduction to Service Management” Lecture at Kobe University (Kobe, Japan), 2014 年 6 月 19 日, 2014.

神戸大学経済経営学会に招かれ、神戸大学大学院経営学研究科でサービスマネジメントの招待講演を行う。世話人は神戸大学大学院経営学研究科の島田智明准教授。

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

全学学群教職課程委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

社会工学類 : 学類カリキュラム委員会委員

大学院三専攻 : FD 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会理事

日本オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 (JOMSA) 理事及び発起人

◆ 学術雑誌編集委員

Editorial Board member of “International Journal of Revenue Management,” April 2009-present.

◆ 国際学術大会運営委員

2014 年 7 月 18 日から 22 日にかけて横浜国立大学で開催された Asia-Pacific Decision Sciences Institute (APDSI) 2014 Conference の運営委員に従事。

◆ Ad-hoc reviewer (学会誌査読委員)

European Journal of Operational Research

International Journal of Production Economics

International Journal of Production Research

Mathematical Problems in Engineering

日本経営工学会論文誌

◆ 高大連携

2014年9月18日、出前講義「顧客満足率と効率化を両立させる経営戦略」.

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校で筑波大学受験希望の高校生に講演.

氏名	栗野 盛光	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マーケットデザイン、ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：情報リテラシー演習/戦略行動システム演習/公共経済学/行動・実験経済学
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人/社会システム工学専攻 1 人/社会工学学位プログラム 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

マッチング市場における様々なプロジェクトを、カーネギーメロン大学、ベルリン社会科学研究所、早稲田大学の研究者とともにに行った。
- ◆ 著書・論文等：

D. Hugh-Jones, M. Kurino, and C. Vanberg “An Experimental Study on the Incentives of the Probabilistic Serial Mechanism,” *Games and Economic Behavior*, 87, 367-380, September 2014. (査読あり)
- ◆ 学会発表等：
 - 学会発表
 - ◇ 12th meeting of the Society for Social Choice and Welfare, Boston College, USA, June 2014
 - ◇ 14th SAET Conference on Current Trends in Economics, Waseda University, Japan, August 2014
 - ◇ 日本経済学会秋季大会、西南学院大学、2014年10月
 - 招待講演（大学セミナー）
 - ◇ 小樽商科大学（2014年10月）、早稲田大学（2014年11月）、一橋大学（2014年12月）、福岡大学（2015年2月）、Hong Kong University of Science and Technology（2015年3月）、関西大学経済実験センターワークショップ（2015年3月）

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類就職委員会、大学院カリキュラム委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ ベルリン社会科学研究所、非常勤研究員、2014年3月-2014年8月
- ◆ ドイツ外務省、コンサルタント、2014年8月-
- ◆ 学術雑誌の査読（カッコ内は査読した論文数）：Journal of Economic Theory (1)、Journal of Mathematical Economics (1)、Mathematical Social Sciences (1)。
- ◆ 2014年8月28日と29日にドイツで行われた国際ワークショップ「Designing Matching Markets」のオーガナイザーを務める。

氏名	近藤 文代	職名	講師
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	モバイルマーケティング、ベイジアンモデル、POSデータ解析、状態空間モデル、時系列分析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
マーケティング工学、マーケティングサイエンス、サービスの産業と組織、経営工学基礎演習、経営の科学、ワークショップ I、ワークショップ II
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 5人 / 社会システム工学専攻 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究 (A)「データベースマーケティングと消費者理論の融合による CRM の新展開」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 1. Kondo, F. N, and Ishida, H. (2014), A Cross-National Analysis of Intention to Use Multiple Mobile Entertainment Services, Journal of Global Information Technology Management, 17(1), 45-60. [Refereed]
- ◆ 学会発表等：

国際会議

 - INFORMS2014にて発表 “Bayesian Elaboration Likelihood Model for Segments by Information Processing Routes and Initial Stages”
 - ISML2014にて発表 “Hierarchical Bayesian Estimation –Consumers’ Change in Cognition and Behavior toward Advertisements by Elaboration Likelihood Model”
- ◆ その他：
指導学生が社会システム工学専攻長賞受賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
ウィーン経済経営大学（学術協定校）の調停者
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学生担当委員、施設委員会

氏名	佐野 幸恵	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理学, 計算機社会科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 : 線形代数 I / プログラミング実習
大学院 : 社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数 : 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
 - ・ ソーシャルメディアデータを用いた人間の集団現象についての社会経済物理学の研究
 - ・ 東京工業大学, 株式会社電通, 株式会社ホットリンク共同研究
「インターネットロコモデータの解析に関する共同研究」(研究協力者)
- ◆ 著書・論文等 :
 - [1] M. Takayasu, K. Sato, Y. Sano, K. Yamada, W. Miura, and H. Takayasu, “Rumor Diffusion and Convergence during the 3.11 Earthquake: A Twitter Case Study”, PLOS ONE 10, e0121443 (2015). [Refereed]
 - [2] Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu, “Emotional Changes in Japanese Blog Space Resulting from the 3.11 Earthquake”, Proceedings of the Social Modeling and Simulations + Econophysics Colloquium 2014 (掲載決定). [Refereed]
- ◆ 学会発表等 :
 - [1] Y. Norose, Y. Takano, Y. Sano and Y. Okada, “Longitudinal Service Repurchasing Models and Their Financial Effects”, INFORMS 2014, San Francisco, US, September 9-12 (2014). [Oral]
 - [2] Y. Sano, H. Takayasu, M. Takayasu, “Quantifying Dynamical Changes in Online Social Emotions”, Social Modeling and Simulations +

Econophysics Colloquium 2014, Kobe, Japan, November 4-6 (2014).

[Refereed oral]

[3] Y. Takano, K. Torii, and Y. Sano, “Network Analysis of Consumer Behaviors in Qualification Courses”, Social Modeling and Simulations + Econophysics Colloquium 2014, Kobe, Japan, November 4-6 (2014)

[Refereed poster]

[4] Y. Sano and Y. Okada, “Empirical Analysis of Repurchasing in Educational Services: A Case Study in a Japanese Professional School”, International School and Conference on Network Science (NetSci-x2015), Rio de Janeiro, Brazil, January 14-16 (2015). [Refereed poster]

[5] 佐野幸恵, 高安秀樹, 高安美佐子, “ソーシャルメディアを用いた外的イベントの定量化”, 日本物理学会 第 70 回年次大会, 早稲田大, 3/21-24 (2015). [口頭発表]

◆ その他 :

筑波大学オープンコースウェア (OCW) 「女性研究者が探るデータの未来」特集にて研究記事掲載 <http://ocw.tsukuba.ac.jp/hybrid>

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - ・学類・大学院 コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 論文査読 (Physica A, The Journal of the Physical Society of Japan, 応用数理)
- ◆ 東京工業大学グローバルリーダー教育院 非常勤講師
- ◆ 複雑ネットワークサマースクール 2014 (2014/8/18-21 東北大) 講師
- ◆ 内閣府主催 J-Win W-STEM Networking Conference 2014 (2014/11/15 お茶大) ワークショップ講師
- ◆ Social Modeling and Simulation + Econophysics Colloquium 2014 (SMSEC2014, 2014/11/4-6 神戸ニチイ学館) 実行委員

氏名	繁野麻衣子	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化、ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／社会工学実習
大学院 応用最適化／離散数理

◆ 指導学生数：

学類 6人／社会システム・マネジメント専攻 1人／社会システム工学専攻
3人
経営政策科学専攻 5人／社会工学専攻 9人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究 (C) 「実問題への適応能力のあるネットワーク最適化アルゴリズムと構造解析手法の発展的展開」 (代表)
2. 学術指導 株式会社サイゼリヤ 「ファミリーレストランにおける調理工程の効率化」
3. 共同研究(経費無し) 産業総合研究所 「リソース最適化に関する研究」

◆ 著書・論文等：

1. M. ZHAMG, S. LUO, and M. SHIGENO, "On the Number of Edges in a Minimum C6-Saturated Graph," *Graphs and Combinatorics*, April 2014
2. 繁野麻衣子, 池上敦子, スタッフ・スケジューリング, サービスサイエンスことはじめ第6章, 筑波大学出版会 2014

◆ 学会発表等：

1. M. FUJIMOTO, S. LOU, D. S. MUTLARA, M SHIGENO, and M. ZAGO, Usage Pattern Analysis for Android Applications: Classification and Measurement, サービス学会, 2014. 4. 28-29, はこだて未来大学

2. S. LUO, M. SHIGENO and W. MA, Ranking Smartphone Apps Based on Users' Behavior Records, 2nd International Conference on Serviceology, 2014. 9. 14-16, Keio University

3. 繁野麻衣子 タクシーサービス向上のための OR 手法の適用可能性, 第7回サービス・イノベーションへの数理的アプローチ研究部会, 2014. 9. 12, テクノスジャパン株式会社社会議室,

4. 羅章, 松浦悠司, 繆瑩, 繁野麻衣子, グラフ上の連結性によるグループテスト, 日本応用数理学会 2015 年研究部会連合発表会, 2015. 3. 6-7, 明治大学

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

研究科 学務・カリキュラム委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

大学院 運営委員・カリキュラム委員/学類 クラス担任

4. 学外の社会貢献

米軍基地子弟ハイスクール高大連携

数理モデル高大連携

氏名	鈴木 勉	職名	教授
専攻(博士後期課程)	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
専攻(博士前期課程)	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	立地科学, 都市空間構造, 持続可能型都市形態, 都市リスク分析, 地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を巡るⅡ／筑波大学から診る環境問題
社会工学類 線形代数Ⅰ／都市計画実習／都市解析
博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／
都市リスク分析演習／地域データ解析／サービス工学特別講
義Ⅳ／社会工学特別講義Ⅵ

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／リスク工学専攻 3人／社会工学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（基盤研究(A)）「地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用」（代表）

科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「集約型都市構造設計への交通システムのインテグレーションに関する研究」（代表）

日本学術振興会 韓国との共同研究(NRF) 「集約的な都市空間構造における環境負荷と生活環境の質を考慮した混合型土地利用」（代表）

科学研究費補助金（基盤研究(B)）「速度マネジメントに着目したエコドライブ普及施策の定量的評価」（分担）

日本学術振興会科学研究費（基盤研究(A)） 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（分担）

日本学術振興会科学研究費（基盤研究(B)） 「成人病化する都市の救命学：

その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築」(分担)

東京大学空間情報科学研究センター 共同研究 「集約型都市における歩行者空間量の適正水準に関する研究」.

◆ 著書・論文等：

笹圭樹・鈴木勉，道路容量制約下での避難場所割当の変更による津波避難時間短縮効果，都市計画論文集，Vol.49, No.3, pp.543-548, 2014.

鈴木勉，周期的人口変動下での動的施設配置とコンパクト化の有効性に関する研究，都市計画論文集，Vol.49, No.3, pp.591-596, 2014.

◆ 学会発表等：

鈴木勉・笹圭樹・佐藤祥路，滞留・歩車混在を考慮した津波避難時間短縮の可能性評価，スケジューリング・シンポジウム 2014 講演論文集，pp.81-86, 2014.

鈴木勉・佐藤祥路・笹圭樹・安藤良輔・加藤秀樹・近藤美則，交通ミクロシミュレータを用いたエコドライブによる CO₂削減効果分析，第31回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集，2015.

佐藤祥路・笹圭樹・鈴木勉・安藤良輔・加藤秀樹・近藤美則つくば市東大通りにおける交通流シミュレーションを用いたエコドライブ CO₂削減効果，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，pp.188-189, 2014.

西沢昂・長谷川大輔・鈴木勉・鷹羽伸一，GPS 車両位置情報を用いた神栖市デマンドタクシーのサービス水準評価，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，pp.184-185, 2014.

Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Analysis on accumulation factors of pedestrian space in central Tokyo, presented at the 2nd Ibero-American Congress on Regional Development and 12th Congress of the Brazilian Regional Science Association (XII ENABER), Belo Horizonte, MG, Brazil, October 15-17, 2014.

佐藤祥路・鈴木勉，自動車と徒歩の混在が津波避難に与える影響と交通手段制御施策効果の分析，地理情報システム学会講演論文集，2014.

笹圭樹・鈴木勉，閉領域内の相対的立地位置の把握手法と大規模施設立地分析への応用，地理情報システム学会講演論文集，2014.

Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Comparative Analysis of Measures for Land Use Mix, Proceedings of the International Symposium on City

Planning 2014 (ISCP2014), Hanoi, Vietnam, November 6-8, 2014.
(CD-ROM)

西沢昂・鈴木勉, 転用を考慮した地域公共施設再編の数理モデル, 第28回応用地域学会 (ARSC) 研究発表大会, 沖縄産業支援センター, 2014年11月29-30日.

巖先鏞・鈴木勉, 東京区部を対象とした歩行者空間の集積要因分析, 2014年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会 (CSIS DAYS 2014), 2014.

Sunyoung Eom and Tsutomu Suzuki, Evaluating mixed land use patterns with multiobjective criteria, 都市のORワークショップ, 南山大学, 2014年12月13日.

佐藤祥路・安達修平・鈴木勉・安藤良輔・加藤秀樹・近藤美則交通量の影響を考慮したエコドライブによるCO₂削減効果, 都市のORワークショップ, 南山大学, 2014年12月14日.

西沢昂・鈴木勉, 転用を考慮した公共施設配置再編モデル, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.76-77, 2015.

佐藤祥路・鈴木勉, 道路延長密度と交差点密度, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.84-85, 2015.

鈴木勉, 通行の障害となる大規模施設の最適配置問題, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.248-249, 2015.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

教員免許状更新講習委員会委員

つくばエコシティ推進グループ委員

外国語センター運営委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

システム情報工学研究科学務・カリキュラム委員長

システム情報工学研究科リスク工学専攻カリキュラム委員会委員

社会工学類予算委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会研究普及理事，IAOR 委員会委員，国際委員会委員
- ◆ 国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- ◆ 常総市公共交通活性化協議会会長
- ◆ 守谷市公共交通活性化協議会委員
- ◆ 神栖市地域公共交通会議委員
- ◆ 筑西市地域公共交通会議委員
- ◆ 筑波研究学園都市交流協議会 3 E フォーラム都市構造・交通システムタスクフォース座長

氏名	TURNBULL Stephen John	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ゲーム論、産業組織、インターネット・ソフトウェア経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 大学院： ネットワークの経済学
 - 学類： 経済動学／専門英語
- ◆ 指導学生数：
 - MBA 6名／修士 2名／学類 7名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究補助金基盤 C（代表）”Industrial Policy Implications of Encouraging Open Source Software in Commerce and Open Projects”
 - マクロ経済学と公共経済学における「家庭内労働効果」について吉田雅敏と続けて理論的研究を行った。日本のソフトウェア業界におけるオープンソースによるライセンス及びソフトウェア開発方法についてのヒアリング調査と理論的分析を行った。ゲーム論に応用した圏論による研究に着手した。
- ◆ 著書・論文等：
 1. Yoshida, Masatoshi and Stephen J. Turnbull, “The Balanced Budget Multiplier and Labour Intensity in Home Production,” *International Journal of Economic Behavior and Organization* 3:2-1, Feb. 2015, pp. 21--30.
 2. Rasouli, GH. Mehdi, Stephen J. Turnbull, and Yasuo Hoshino, “Foreign Ownership, Knowledge Transfer, Firm Specific Factors, Management and Performance of Foreign Companies in Japan.” *International Journal of Services Technology and Management*, to appear

◆ 学会発表等：

1. ``The Zen of (Python) Software Maintenance." FOSSAsia 2015 (Singapore):
March 14, 2015.
2. ``How to Grow an Open Source Project: A Case Study of Python." Further
Development of Dynamic Economic Research 2015 Spring Edition of Hayama
Meeting (Hayama, Kanazawa): March 7, 2015.
3. ``The Balanced Budget Multiplier and Labor Intensity in Home Production" (with
Masatoshi Yoshida). Further Development of Dynamic Economic Research 2015
Spring Edition of Hayama Meeting (Hayama, Kanazawa): March 6, 2015.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 留学生支援委員会、学生相談室長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 編集委員、経営行動科学
- ◆ 概要編集担当、経済研究
- ◆ Super Global High School 連携、土浦一高騰学校
- ◆ メンター、Google Summer of Code
- ◆ メンバー、Internet Engineering Task Force DMARC Working Group

氏名	高橋義明	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	行動経済学、幸福度研究、消費者教育		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経済学入門 II／日本経済論／公共システム演習
 大学院 制度・政策決定論／行動・実験経済学

◆ 指導学生数：

社会工学類 16名／社会工学専攻 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

幸福度測定における文化差の原因の解明（フィリピン調査など）、震災と幸福との関係、消費者組織の役割

◆ 著書・論文等：

1. 高橋義明（2014）震災時に受けた経験の相違が幸福度に与える影響，日本行動計量学会大会発表論文抄録集 42, pp.314-315
2. 高橋義明（2014）諸外国における消費者団体-その取組みと運営状況，現代消費者法，民事法研究会，24号，pp.70-76
3. 高橋義明（2014）日本と比較した海外諸国の消費者相談の特徴，消費者法ニュース 99号，pp. 205-207.

◆ 学会発表等：

1. Takahashi, Y., Happiness, ideal happiness, and reference points: Asian cases, 2nd Well-being and Public Confernece, Clinton, NY., US, June 10-12, 2014.
2. Takahashi, Y., Happiness, ideal happiness, and reference points, XVIII World Congress of Sociology, Yokohama, Japan, July 13-19, 2014.
3. 高橋義明，幸福度からみた自殺，日本自殺総合対策学会設立記念フォーラム，一橋大学，2014年9月7日

4. Takahashi, Y., Age and Happiness: Comparative analysis between five countries, The 2nd International Conference on Global Aging, Tsukuba, Japan, September 29, 2014.
5. 高橋義明, 風評被害の実像: 消費者教育と産地選好, 第 34 回日本消費者教育学会全国大会, 2014 年 10 月 4~5 日
6. 高橋義明, 消費者安全とアノマリー: 消費者事故は消費者の自己責任か, 行動経済学会第 8 回大会, 2014 年 12 月 6~7 日
7. Takahashi, Y., The Role of Education for Consumers' Food Choice After the Accident at Fukushima First Nuclear Plant, PERL International Conference, UNESCO, Paris, France, March 10-11, 2015

◆ その他 :

(招待講演)

高橋義明, 基調講演: 我が国の消費者団体の目指す形~諸外国における消費者団体制度と比較して~, 適格消費者団体連絡協議会, 姫路市, 2015

(新聞)

高橋義明: ブータンの幸福度調査に協力する日本チームの団長, 読売新聞 2014 年 12 月 1 日朝刊 2 面「顔」

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
教育開発国際協力研究センター運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):
修士論文委員会委員
社会工学類オリエンテーション委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ ブータン王国 2015 年国民幸福度調査 Technical Committee メンバー(日本側団長)
- ◆ 独立行政法人国際協力機構 JICA 研究所共同研究者
- ◆ 日本消費者法学会理事
- ◆ 日本消費者教育学会関東支部理事

氏名	竹原 浩太	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理ファイナンス, 金融工学, 応用確率解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：数理工学モデル化実習（繁野教授・山本教授・吉瀬教授と共同）
 - 応用確率論（住田教授と共同）
 - 問題解決と発見（吉瀬教授・有馬講師と共同）
 - 大学院：投資科学（岸本教授と共同）
 - ファイナンス：理論と実践（浅野教授と共同）
- ◆ 指導学生数：
 - 卒業研究：3名
 - 修士：社会システム工学専攻2年 1名
 - 経営・政策科学専攻2年 4名（論文1名，特定課題研究3名）

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 「インターネットにおけるロコミ効果の国際比較」, 科研費基盤研究 B・一般, 研究分担者（代表者：筑波大学 住田潮教授）
 - 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」, 科研費基盤研究 A・一般, 研究分担者（代表者：筑波大学 大澤義明教授）
- ◆ 著書・論文等：
 - Kohta Takehara, “An Asymptotic Expansion Approach around Non-Gaussian Distributions,” working paper.
- ◆ 学会発表等：
 - Kohta Takehara, “An Asymptotic Expansion Approach around Non-Gaussian Distributions,” Quantitative Methods in Finance 2014, Hilton Sydney, Austrarila, 17-20, Dec., 2014

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院：カリキュラム委員会

社工コモンズ検討委員会

学類：社会工学類・経営工学主専攻平成 23 年度入学年次クラス担任（渡辺真一郎教授と共同）

プレイスメントテスト実施委員（牛島助教と共同）

就職委員（金澤教授と共同）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 所属学会

日本ファイナンス学会，日本金融・証券計量・工学学会，日本 OR 学会，日本統計学会（役員等はなし）

- ◆ 論文査読実績

和文誌：現代ファイナンス

英文誌：Asia-Pacific Financial Markets, International Journal of Theoretical Finance, Mathematical Finance, Quantitative Finance

氏名	谷口綾子	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市交通計画，態度行動変容研究，都市リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】 都市計画実習，交通運輸政策，都市・地域・環境を探る I

【大学院前期課程】 都市安全管理特論，リスク工学特別演習，リスク工学基礎，都市リスクコミュニケーション，リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 3名 社会工学類 3名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 平成 26-29 年度 科学研究費(基盤 A(代表)) 健康に配慮した交通行動誘発のための学際的研究
2. 平成 24-26 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) 子育てしやすい働き方の探求と実現のための施策の立案および評価に関する研究
3. 平成 26-28 年度:受託研究 損保協会自賠責運用益拋出事業(研究支援) 助成金 「優先配慮行動を促す道路上のコミュニケーションと交通安全」 研究代表者

◆ 著書・論文等：

- (1) 谷口綾子，神田佑亮，宮川愛由：モビリティ・マネジメントと市民生活行動変容，市民生活行動学(分担執筆，第 13 章担当)，土木学会，2015.
- (2) Handbook of Sustainable Travel: People, Society, and Transportation Systems: Chapter 11 (Satoshi Fujii & Ayako Taniguchi), Theoretical underpinnings of practical strategies for travel behavior change, pp. 151-164, (Edit) Tommy Gärling, Dick

Ettema, and Margareta Friman, Springer, 2014.

- (3) Ichikawa, M., Nakahara, S., **Taniguchi, A.** (2015) Older driver's risks of at-fault motor vehicle collisions, Accident analysis & prevention, Elsevier, vol.xx, pp.xx-xx. (Printing)
- (4) **谷口綾子**,大森宣暁:ベビーカー利用者の移動時幸福感の規定因に関する国際比較 - 周囲の支援は必要?, 土木学会論文集 D3, Vol. xx, pp.xx-xx, 印刷中
- (5) **谷口綾子**, 宮川雄貴, 石田東生:地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える影響の検証 -かしてつバス導入時の事例-, 土木学会論文集 H(教育), 70(1), pp.54-64, 2014 . (DOI :10.2208/jscejep.70.54)
- (6) **Taniguchi, A.**, Gräås, C., Friman, M. (2014) Satisfaction with travel, goal achievement, and voluntary behavioral change, Transportation Research Part F: Traffic Psychology and Behaviour, Volume 26, Part A, pp.10-17.
- (7) **Taniguchi, A.**, Fujii, S., Azami, T., Ishida, H. (2014) Persuasive Communication Aimed at Public Transportation-Oriented Residential Choice and Promotion of Public Transport, Transportation, Volume 41, Issue 1, pp. 75-89.

◆ 学会発表等 :

6. R. Sato, **A. Taniguchi** (2014) A Study on Response of Local Government Staffs for Local Bus after the Great East Japan Earthquake Utilizing the Disaster Ethnography, Proceeding of Third International Conference on Urban Disaster Reduction - Sustainable Disaster Recovery: Addressing Risks and Uncertainty - , Boulder, Colorado, USA, 2014.9.
7. **Taniguchi, A.** and N. Ohmori (2014) Child Pick-Up from Day-Care Center Following a Disaster: Working Mothers' Attitude and Behavior in Tokyo at the Great East Japan Earthquake, the 5th International Conference on Women's Issues in Transportation, Paris, France, 2014.4.
8. Ishigami, T., N. Izumi, S. Hirata, N. Ohmori and **Taniguchi, A.** (2014) Travel Behavior of Working Mothers in Tokyo Metropolitan Area, Particularly Addressing Those with Small Children and Their

Residential Areas, the 5th International Conference on Women's Issues in Transportation, Paris, France, 2014.4.

9. Ohmori, N., **Taniguchi, A.**, R. Manabe, Y. Terauchi, S. Aono (2014) How Different Are Barriers against Out-of-Home Activity Participation for Women Raising Children, the 5th International Conference on Women's Issues in Transportation, Paris, France, 2014.4.
10. 川村竜之介, **谷口綾子**, 大森宣暁, 谷口守: 公共交通車内における協力行動と規範に関する国際比較, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.49, 2014.
11. **谷口綾子**: ベビーカー連れは有料? 無料? — スウェーデン, カールスタッド市のバス運賃変更施策, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.49, 2014.
12. 佐藤良太, **谷口綾子**: 東日本大震災における路線バス運行現場の災害応急対応に関する災害エスノグラフィー — 大船渡エリアを中心に —, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.49, 2014.

◆ その他:(論説)

- (1) **谷口綾子**: TDM と MM, 自動車交通研究, 日本交通政策研究所, 2014.
- (2) **谷口綾子**: 高速道路と人々の暮らし, 高速道路と自動車(時評), 2014年10月号.
- (3) **谷口綾子**: ドボジョとドロンジョ, 白榆, 2014.
- (4) **谷口綾子**: モビリティ・マネジメントとまちづくり—ひとりひとりの振る舞いがまちを変える—, 土地総合研究, pp.46-52, 2014.
- (5) **谷口綾子**: ライフスタイルの変化と交通 — 「健康」になれる交通体系を目指して—運輸と経済2月号, pp.67-70, 2014.
- (6) **谷口綾子**: 環境配慮行動, 土木学会100周年記念事業, 印刷中
- (7) **谷口綾子**: 子連れ外出に対する意識の世代間ギャップ, 交通工学, vol.49, No.1, 2014年1月号, pp.4-9, 2014.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - つくばエコシティ推進グループ：キャンパス交通システムの利用促進
 - 筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進
 - 研究科広報委員：研究科パンフレット, ポスターの更新
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻：広報委員長, FD 委員
 - 社会工学類：カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 講演・パネルディスカッション
 - (1) 土木学会土木計画学研究小委員会 子育てワンデーセミナー 講師 「子育てバリアフリーにおける世代間ギャップと副作用の存在に関する研究」2015年3月14日
 - (2) 龍ヶ崎市 マイレール・フォーラム～ふるさとの鉄路を考える in 龍ヶ崎線～ パネルディスカッション パネラー 2014年3月1日
 - (3) 群馬県庁ぐんま”まちづくり”ビジョンシンポジウム 基調講演 「モビリティ・マネジメント～公共交通を使うライフスタイルはかっこいい！～」2015年2月9日
 - (4) 東京都市圏交通計画協議会 東京都市圏総合都市体系調査 市区町村説明会 基調講演 「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」2014年11月
 - (5) 上智大学大学院地球環境学研究科「地球温暖化対策論」非常勤講師 「自動車と公共交通を賢く使う交通戦略 モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2014年11月
 - (6) 国土交通大学校 専門課程 総合交通体系（地域モビリティ戦略）研修会講師 「自動車と公共交通を賢く使う交通戦略：モビリティ・マネジメントの概要とポイント」2014年11月
 - (7) 関東運輸局・川崎市 エコ通勤推進会議・エコ運搬フォーラム 基調講演 「モビリティ・マネジメントでエコ通勤：～事例から学ぶ通勤者の動かし方～」2014年10月
 - (8) JICA 平成 26 年度 JICA 集団研修「総合都市交通計画・プロジェクト」 講師 「Mobility Management - essence and key points」 2014年10月

- (9)福井大学 市民協働の交通まちづくりカフェ 講師 「みんなで交通まちづくり：モビリティ・マネジメントを通じた実践と展望」 2014年10月
- (10)交通エコロジーモビリティ財団 第4回 地域の交通環境対策推進者養成研修会 講師 (富山)「富山の中心市街地活性化を考える ～グランドプラザに何で行く?」 2014年10月
- (11)札幌市 札幌らしい交通環境学習フォーラム2014 講師 「交通環境学習の意義と教材例」 2014年8月
- (12)先進モビリティ研究会 先進的モビリティと都市交通政策セミナーin Sapporo 講師 「スウェーデンのまちと交通～カールスタッドとイエブレの事例～」 2014年7月

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 専門委員 2015年2月～
- 国土交通省 国土審議会 北海道開発分科会計画部会 委員 2014年12月～
- 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員 2014年9月～
- 国土交通省 都市局 全国都市交通特性調査検討会 WG 委員 2014年6月～
- 国土交通省 航空局 仙台空港特定運営事業等 審査委員会委員 2014年6月～
- 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員 2014年6月～
- 国土交通省 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会 委員
- 国土交通省 運輸審議会 運輸安全マネジメント部会 専門委員 2014年2月～
- 国土交通省 交通政策審議会 環境部会 臨時委員、国土交通省 2007年4月～
- 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012年1月～
- 茨城県 第74回国民体育大会茨城県準備委員会 輸送・交通

専門委員会 委員 2014年1月～

- 三条市・見附市 健幸都市実現を支える都市集約化のあり方研究会 2013年9月～
- 三重県総合交通ビジョン懇話会 委員 2013年10月～
- 長岡市 長岡都市圏交通円滑化計画策定委員会 委員 2012年11月～
- 静岡県 道路技術審議会 委員 2012年10月～
- 龍ヶ崎市公共交通活性化協議会 委員
- 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 2009年1月～
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008年10月～
- 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師 2005年～
- 交通エコロジー・モビリティ財団 EST普及推進委員会 委員 2005年～

氏名	谷口 守	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域計画, 交通計画, 環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画実習／都市計画原論／都市構造論／東京の都市学／総合科目
「都市・地域・環境を探る」

大学院前期課程 都市と環境（都市計画の課題と方法）

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学専攻（博士後期） 1人

社会システム工学専攻 4人／社会工学専攻（博士前期） 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 挑戦的萌芽研究「サイバースペースを考慮したトータルスペース・マネジメント手法の開拓」（代表）

科学研究費 基盤研究(B)「成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築」（代表）

委託研究 「震災による移動需要の変化や将来に向けた持続可能な公共交通の確保に関する調査研究」（代表） 福島県いわき市：大学等と地域の連携したまちづくり推進事業

研究助成金 「システム情報系社会工学域の学術研究に対する研究助成」（代表） 富士通研究所

研究助成金 「集団緑化と地産地消による環境バランス改善評価ツールの開発と適用～エコロジカル・フットプリント指標を応用して～」（代表） 公益信託エスベック地球環境研究・技術基金

研究助成金 「地域を超えて助け合う新しいコミュニティの創発、一震災復興支援の促進要因分析から一」（代表） 公益財団法人ユニバーサル財団

研究助成金 「『都市ドック』制導入による人口減少社会での都市空間再生
に関する研究」 (代表) 一般財団法人国土技術研究センター

◆ 著書・論文等：

★ 著書

- 1) 谷口守：入門 都市計画、森北出版、2014. 10.
- 2) Mori, H. and Taniguchi, M.: Factor analysis of a move to a
“Karino-machi”, Risk Analysis, 2014. WIT PRESS, 2014. 6.

★ 査読付き論文

- 1) 富永透見・外菌宏介・谷口守：立地政策に配慮したポイントアクセシビリティ指標の開発と適用、集客施設等を対象としたケーススタディからー、土木学会論文集 D3、Vol.70、No.5、pp.755-762、2014.
- 2) 谷口守・伊勢晋太郎・陳鶴・村上暁信：環境バランスエリアの創世に関する試論、ー茨城県を対象としたケーススタディー、土木学会論文集 D3、Vol.70、No.5、pp.93-102、2014.
- 3) 陳鶴・小田佳代子・谷口守：地域スケールでの環境バランス評価ツールの開発とその感度分析、環境システム研究論文集、Vol.42、pp.87-96、20
- 4) 山口裕敏・土居千紘・谷口守：災害時における他地域に対する自発的援助の存立要因に関する研究、ー東日本大震災を対象としてー、都市計画論文集、No.49-3、pp.303-308、2014.
- 5) 肥後洋平・森英高・谷口守：「拠点へ集約」から「拠点を集約」へ、ー安易なコンパクトシティ政策導入に対する批判的検討ー、都市計画論文集、No.49-3、pp.921-926、2014.
- 6) 谷口守・星野奈月・富永透見：「つぶやき」から見る都市についての一考察、ー都市名に着目してー、都市計画論文集、No.49-3、pp.939-944、2014.
- 7) 森英高・谷口守：潜在的な転居意向の実態とその要因に関する調査報告、ー居住者の都市構造リスク認識という観点からー、都市計画論文集、No.49-3、pp.405-410、2014.
- 8) 外菌宏介・富永透見・谷口守：簡易なポイントアクセシビリティ指標の開発、ー都市機能誘導区域と居住誘導区域の設定検討に向けてー、交通工学研究発表会論文集、No.34、CD-Rom、2014.
- 9) 森英高・谷口守：被災地域にみる不動産流通の実態と居住地選択意向に関する一考察、地域安全学会論文集、No.24、pp.273-281、2014.

- 10) 中川喜夫・谷口守：電力価格政策が街区間における余剰電力融通に与える影響、- 都市構造から見る住宅地へのスマートグリッド導入効果 -、不動産学会学術講演会論文集、No.30、pp.21-28、2014.
- 11) 土居千紘・柴田賢治・芳賀稔・谷口守：地域での助け合い活動におけるアクティブシニアの実像、- 高齢者の人材育成環境を牛久市で考える -、土木学会論文集 H(教育)、Vol.71-1、pp.1-8、2015.

★論説

- 1) 谷口守：コンパクトシティ政策の課題と展望、Urban、Vol.26、pp.39～44、2014.
- 2) 谷口守：地域再生と新しい情報通信技術、TELECOM FRONTIER、No.83、2014 SPRING.
- 3) 谷口守：歴史的な転換点に立ち会えて、コンパクトシティ整備に関する新たな諸制度への期待、新都市、Vol.68、No.9、pp.15-18、2014.
- 4) 谷口守：講座 コンパクトシティ 第4回（最終回）「その限界と未来」、交通工学、Vol.49、No.4、pp.62-66、2014.
- 5) 谷口守・森英高：被災地域の転居状況に見る車依存の実態とリスク認識について、交通まちづくり：土地利用・交通施策を支えるしくみの展開可能性、日本交通政策研究会、日交研シリーズ A-622、pp.22-33、2015.
- 6) 谷口守：過剰評価の時代に、- 持続可能性評価指標の持続可能性から考える -、都市計画、Vol.64、No.1、特集：都市の評価とランキング、pp.10-13、2015.

◆ 学会発表等：

★口頭発表

- 1) 土居千紘・對馬和慶・谷口綾子・谷口守：高齢者の徒歩行動促進要因に関する一考察、- 牛久市を対象として -、環境システム研究論文発表会講演集、No.42、pp.109-114、2014.
- 2) 中川喜夫・松橋啓介・谷口守：都市構造がスマートグリッドによる余剰電力活用に及ぼす影響、- 街区間の融通効果に着目して -、環境システム研究論文発表会講演集、No.42、pp.73-80、2014.
- 3) 川村竜之介・谷口綾子・大森宣暁・谷口守：公共交通車内における協力行動と規範に関する国際比較、土木計画学研究・講演集、Vol.49、2014.
- 4) 高柳百合子・明石達生・谷口守：放課後の児童を見守る生活街路の空間条件に関する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.49、2014.

- 5) 富永透見・中村江・武藤成一・谷口守：深夜帰宅困難者を救え、～高速バス「つくば号」の活用を目指した学生の提案から～、第9回 JCOMM、2014.
- 6) 飯野公央・土江紀明・山本俊彦・尾高慎二・神田佑亮・谷口守：ノーマイカーウィークと既存資源を活かしたまちづくり MM の試行、～まちづくり構想実現に向けた MM 活用の可能性～、第9回 JCOMM、2014.
- 7) 溝口秀勝・日立市都市建設部新交通推進課・山田稔・谷口守：茨城県日立市における鉄道廃線敷を活用した BRT の導入、第9回 JCOMM、2014.
- 8) 肥後洋平・森英高・谷口守：「拠点へ集約」から「拠点を集約」するコンパクト化政策への転換必要性、土木計画学研究・講演集、Vol.50、P36、2014.
- 9) 中川喜夫・松橋啓介・谷口守：都市構造からみる余剰電力の街区間融通と電力価格政策との連携可能性、土木計画学研究・講演集、Vol.50、P3、2014.
- 10) 土居千紘・山口裕敏・谷口守：災害時におけるボランティア援助の存立要因に関する研究、土木計画学研究・講演集、Vol.50、P54、2014.
- 11) 富永透見・肥後洋平・谷口守：ネットコンシャスな拠点計画に関する一考察、一チェックインスポットに着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.50、P37、2014.
- 12) 谷口守・星野奈月・富永透見：自治体の観光資源に対する認識と SNS 上の「話題」とのギャップ分析、土木計画学研究・講演集、Vol.50、P35、2014.
- 13) 陳鶴・小田佳代子・谷口守：日常生活の見直しに基づく環境改善の可能性、土木計画学研究・講演集、Vol.50、P2、2014.
- 14) 土居千紘・山根優生・谷口守：部署間コミュニケーションの特徴とその効果に関する一考察、一市職員間のワーキング会議議事録を用いて一、都市計画報告集、No.13-2、pp.55-59、2014.
- 15) 富永透見・肥後洋平・谷口守：拠点計画とチェックインスポットの空間的対応の実態、一ネットコンシャスなまちづくりを見据えて一、都市計画報告集、No.13-2、pp.49-54、2014.
- 16) 小田佳代子・陳鶴・谷口守：さいごに生き残る都市を考える、一ローカルスケールにおける環境バランスの視点から一、都市計画報告集、No.13-4、pp.174-179、2015.

◆ その他：

都市計画学会 年間優秀論文賞受賞

指導学生受賞（森英高：研究科長賞、富永透見：専攻長賞、土居千紘：茗溪会賞、山根優生：卒論優秀発表賞）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学務・カリキュラム委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
修士論文委員長、入試委員、人事懇談会世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員）
IFHP(International Federation of Housing and Planning) 評議員
日本都市計画学会 学術委員会 委員長、常務理事
運輸政策研究 編集委員会委員
日本モビリティ・マネジメント会議 理事
JASOPH(Japanese Society for Planning and Housing) 理事
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
内閣府 「総合特別区域の専門家評価」委員
参議院 「国土交通委員会」参考人
文部科学省 「大学設置・学校法人審議会」分科会委員
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会
都市計画部会 新たな時代の都市マネジメント小委員会」委員
国土交通省 「都市計画関連ビジネスの新たな展開に関する研究会」委員
国土交通省 「全国都市交通特性調査検討会」委員
国土交通省 「次期道路交通センサスに関する検討委員会」委員
国土交通省 「河川技術評価委員会流域計画・流域管理課題評価分科会」委員
環境省 「中央環境審議会」専門委員
環境省 「循環共生型地域づくりに向けた検討会」委員
環境省 「交通低炭素化技術開発分野分科会」委員
環境省 「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金に係る審査委員会」委員
環境省 「運輸部門における温室効果ガス排出量等の定量化及び検討・施策検討会」委員
環境省 「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に係る環境改善取組
検討」委員

環境省 「平成 26 年度環境研究・技術開発の推進戦略フォローアップ等調査」 委員
国土交通省 関東地方整備局 「次期東京都市圏 P T 調査に関する意見交換会」 座長
みち研究所 「道路空間高度化研究会」 委員
計量計画研究所 「さいたま市超小型モビリティ検討会」 委員
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 委員長
埼玉県 「埼玉県都市計画審議会」 委員長
茨城県 「都市計画審議会」 委員
福岡県 「福岡県都市計画基本方針検討委員会」 委員
福岡県 「福岡県都市計画審議会マスタープラン等検討委員会」 専門委員
日立市 「ひたち B R T まちづくり計画策定委員会」 委員長
倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」 議長
福山市 「福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会自動車交通対策部会」 部会長
宇都宮市 「ネットワーク型コンパクトシティ有識者会議」 委員

氏名	張 勇兵	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：情報工学情報実習／情報ネットワーク／情報技術実験／情報リテラシー・演習／社会工学における戦略的思考・理論・実験及び演習／社工専門英語

大学院：情報ネットワーク

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人

社会システム工学専攻 2人

経営・政策科学専攻 2人

社会システム・マネジメント専攻 1人

社会工学専攻 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

平成25年度国立情報学研究所共同研究「モバイルクラウド構築手法の研究」
(代表)

◆ 著書・論文等：

Z. Liu, J. Feng, Y. Ji, and Y. Zhang: EAF: Energy-aware Adaptive Free Viewpoint Video Wireless Transmission, *Elsevier Journal of Network and Computer Applications*, Vol. 46, No. 12, pp. 384-394 (Dec. 2014).

◆ 学会発表等：

K. Moriyama and Y. Zhang: An Efficient Distributed TDMA MAC Protocol for Large-Scale and High-Data-Rate Wireless Sensor Networks, *Prof. IEEE Int. Conf.*

Advanced Information Networking and Applications (AINA-2015), pp. 84-91,
Gwangju, Korea (March 25-27, 2015).

Y. Tao, Y. Zhang, and Y. Ji: Efficient Computation Offloading Strategy for Mobile
Cloud Computing, *Prof. IEEE Int. Conf. Advanced Information Networking and
Applications (AINA-2015)*, pp. 626-633, Gwangju, Korea (March 25-27, 2015).

梅本陽平、張勇兵：地理情報技術を用いた糖尿病患者通院先決定に関する研
究、オペレーションズ・リサーチ学会2015年春季研究発表会、1ページ、
東京 (2015年3月26-27日)。

K. Moriyama and Y. Zhang: Packing: Distributed TDMA MAC Protocol with Spatial
Reuse for Wireless Sensor Networks, *Tsukuba Global Science Week 2014*, p. 118,
Tsukuba, (September 26-27, 2014).

◆ その他：

森山耕平(指導学生)受賞：Young Scientist Award, Tsukuba Global Science Week
2014

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系運営委員会委員、システム情報工学研究科運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類長

4. 学外の社会貢献

Associate Editor (2007～), *Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications*,
Springer.

Program Committee, [IEEE Int. Conf. Computer Communications \(INFOCOM2014\)](#), Toronto,
Canada, April 27-May 2, 2014.

Program Committee, [IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conf. \(IWCMC
2014\)](#), Nicosia, Cyprus, August 2014.

Program Committee, Ad Hoc and Sensing Networking Symp., *IEEE Int. Conf. Communications
(ICC2014)*, Sydney, Australia, Jun. 10-14, 2014.

Referee for *IEEE Communications Letters*

氏名	堤 盛人	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用空間統計学, 土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ 国土・地域・都市の政策評価（プロジェクトの評価とファイナンス） 都市計画マスタープラン策定実習（共同） 東京の都市学（分担） 都市構造論（分担）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人 社会工学専攻 博士前期課程 2人 博士後期課程 1人
社会システム工学専攻 3人 社会システム・マネジメント専攻 1人

◆ 学生の受賞：

2014年11月 吉田崇紘 2014年度地理情報システム学会学術研究発表大会 大会優秀発表賞 「空間的相関を考慮する組成データ解析手法の社会経済データへの適用」

2014年11月 吉田崇紘 2014度 S-PLUS 学生研究奨励賞 最優秀賞（賞金10万円） 「空間的相関を考慮する組成データ解析手法の社会経済データへの適用」

2015年3月 吉田崇紘 筑波大学大学院システム情報工学研究科長表彰

2015年3月 黒田翔 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻長表彰

2015年3月 大原明彦 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻長表彰

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 国土交通省国土技術政策総合研究所（審議会等公募型） 受託研究 『道路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究『道路台帳を活かした道路アセス

トマネジメントに関する研究』

研究代表者 株式会社帝国データバンク 受託研究『空間情報と大規模企業データを用いた事業所間取引構造に関する研究』

研究代表者 株式会社タス 奨学寄付金 『不動産証券化サービスに関する研究』

研究代表者 朝日航洋株式会社 奨学寄付金『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用』(代表：鈴木勉)

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究』(代表：大澤義明)

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開』(代表：石田東生)

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C) 『ビッグデータを用いた不動産市場の社会的動学の特性に関する研究』(代表：川口有一郎)

研究分担者 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 委託研究費 『戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究』 (代表：前川宏一)

◆ 著書・論文等：

i) 審査つき論文

- 1) Hajime Seya, Morito Tsutsumi and Yoshiki Yamagata: Weighted-average least squares applied to spatial econometric models: A Monte Carlo investigation, Geographical Analysis, Vol. 46, pp. 126-147, 2014.
- 2) Morito Tsutsumi and Daisuke Murakami: New Spatial-Econometrics-Based Areal Interpolation Method, International Regional Science Review, Vol. 37, Issue 3, pp. 273-297, 2014.
- 3) 堤盛人・村上大輔・嶋田章：「我が国の三大都市圏を対象とした住宅地価分布図の作成」『GIS－理論と応用』, Vol.22, No.2, pp.1-11, 2014

- 4) 村上大輔, 瀬谷創, 山形与志樹, 堤盛人: 「空間統計モデルを用いた市区町村レベルの建築物ストックの推計」, 『応用地域学研究』, No.18, pp.41-54, 2014.
- 5) 山形与志樹・村上大輔・瀬谷創・堤盛人: 「業務交通トリップデータを用いた東京都区部における産業集積の空間分析」, 『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol.70, No.5 (土木計画学研究・論文集第 31 巻), I_343-I_352), 2014.
- 6) 黒田翔・堤盛人・奈良岡浩二: 「価格構造の空間的異質性に基づく不動産市場の地理的細分化」, 『ジャレフ・ジャーナル (不動産ファイナンス・不動産経済学研究)』, No.7, pp.1-18, 2014.

ii) 論説

- 1) 堤盛人: 「資産評価における統計学の応用可能性」, 『資産評価情報』, 2014年9月号(202号), pp.23-28, 2014.

◆ 学会発表等:

- 1) 吉田崇紘・堤盛人: 「空間効果を考慮した組成データ解析—国土数値情報の土地利用3次メッシュデータを対象とした実証分析」, 『日本写真測量学会平成26年度年次学術講演会発表論文集』, pp.109-112, 5月22日~23日, 2014.
- 2) 吉田崇紘・堤盛人: 「空間効果を考慮した組成データ解析」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.49, (CD-ROM 講演番号: 359), 6月7日~8日, 2014.
- 3) 爲季和樹・堤盛人: 「空間統計モデルを用いた面補間法に基づくODフローの空間詳細化」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.49, (CD-ROM 講演番号: 357), 6月7日~8日, 2014.
- 4) 村上大輔・瀬谷創・山形与志樹・堤盛人: 「地理空間情報を活用した geographically weighted regression モデルによる建築物ストックの詳細推計」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.49, (CD-ROM 講演番号: 356), 6月7日~8日, 2014.
- 5) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: Spatial multinomial logit model: spatial lag modeling and eigenvector-based spatial filtering, presented at the Eighth World Conference of the Spatial Econometrics Association, ETH, Zurich, Switzerland, 11-13 of June, 2014.

- 6) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Assessing the estimation accuracy of LQ methods for regionalization of input coefficients: a case study in Japan, presented at 22nd International Input-Output Conference, Lisbon, Portugal, 14-18 July 2014.
- 7) Kazuyuki Fujii, Syoutan En and Morito Tsutsumi: Natural Vacancy Rate Analysis for Tokyo's 23 Wards Rental Apartment Market, #64, presented at 2014 AsRES International Conference, Gold Coast, Australia, 14-16 July 2014.
- 8) Yoko Hozumi, Kazuyuki Fujii and Morito Tsutsumi: Relationship between Vacancy Duration and Rate of Rent Reduction: Evidence from the Rental Apartment Market in Tokyo's 23 Wards, #68, presented at 2014 AsRES International Conference, Gold Coast, Australia, 14-16 July 2014.
- 9) Tomoyasu Iida, Kazuyuki Fujii and Morito Tsutsumi: Hedonic and Repeat Sales Rent Indices for the Rental Apartment Market in Tokyo's 23 Wards, #71, presented at 2014 AsRES International Conference, Gold Coast, Australia, 14-16 July 2014.
- 10) 吉田崇紘・堤盛人: 「空間的相関を考慮する組成データ解析手法の社会経済データへの適用」, 『地理情報システム学会講演論文集』, Vol.23, E-3-5, (CD-ROM), 11月7日～8日, 2014.
- 11) 爲季和樹・堤盛人: 「コミュニティ抽出法を用いた OD フローのクラスター検出手法の検討」, 第 28 回応用地域学会, 沖縄産業支援センター, 11月29日～30日, 2014.
- 12) 黒田翔・堤盛人・今関豊和: 「東京オフィス市場における自然空室率の推計」, 日本不動産金融工学学会, 2月21日, 2015, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋)

◆ その他:

受賞 2014年11月 2014年度地理情報システム学会 学会賞(学術論文部門)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

全学: 1) 国立大学法人筑波大学資金運用委員会委員

2) 職員宿舍整備に関するタスクフォース・メンバー

理工学群：総合政策室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻 社会システム・マネジメント専攻 社会システム工学専攻
経営・政策科学専攻：

1) 運営委員会委員

2) 広報委員会委員

社会工学類：

1) 運営委員

2) 広報委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員，論文査読等）

1) 一般社団法人 日本写真測量学会 評議員

2) 日本不動産金融工学学会 評議員

3) 査読委員/査読者：日本経済研究，日本計画行政学会，Environment and Planning A，写真測量とリモートセンシング，ジャレフ・ジャーナル（不動産ファイナンス・不動産経済学研究），都市住宅学会。

4) 表彰等の審査員：都市住宅学会賞・2014年論文賞審査員，日本不動産学会・学会賞（湯浅賞（研究奨励賞））審査委員

◆ 社会的活動

1) 総務省 『政策評価・独立行政法人評価委員会』 臨時委員

2) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員

3) 国土地理院 『電子国土賞選考委員会』 委員

4) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員

5) 相模原市 『小田急多摩線の延伸計画に関する研究会』 委員

6) 公益社団法人日本測量協会 『地理空間情報専門技術委員会』 委員

◆ その他兼業

株式会社タス 非常勤顧問

氏名	中村 豊	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定論、理論経済学、数理心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：社会工学類：微積分 I、意思決定論、大学院社会システム工学専攻：意思決定理論
- ◆ 指導学生数：社会工学類 4 年生 3 名、社会システム工学専攻 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
以下のワーキング・ペーパーを完成させた。
 - (1) Nakamura, Y.: Subjective risk aversion (revised)
 - (2) Nakamura, Y.: State-dependent strength-of-preferences
 - (3) Nakamura, Y.: Differentiability of von-Neumann-Morgenstern utility functions
 - (4) Nakamura, Y.: Mean-variance utility
- ◆ 学会発表等：
Fujii, Y. and Nakamura, Y.: Regret-sensitive risk premium 日本経済学会秋季大会で発表

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：全学入試業務
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：学類運営委員、カリキュラム委員、博士論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 早稲田大学大学院心理学研究科非常勤講師

氏名	八森 正泰	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 情報リテラシー・演習／シミュレーション／情報技術実験／マネジメント実習／社会工学特設講義（民法）（世話人）

大学院 離散数理

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会工学専攻（前期課程） 3人／社会システム工学専攻 1人／社会システム・マネジメント専攻 1人（+研究生 1人）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（C）「部分構造への等質性を基軸とする単体的複体の構造解析」（代表）

基盤研究（C）「実問題への適応能力のあるネットワーク最適化アルゴリズムと構造解析手法の発展的展開」（分担、代表：繁野麻衣子）

基盤研究（B）「インターネットにおけるロコミ効果の国際比較」（分担、代表：住田潮）

基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（分担、代表：吉瀬章子）

◆ 学会発表等：

研究集会「有限幾何と組合せデザイン」，東京理科大学神楽坂キャンパス，2015年3月6-7日，「マトロイドの拡張としての hereditary property」
 組合せ論サマースクール 2014(COS2014)，山口県山口市かんぼの宿湯田，2014年9月3-6日，「Poset matroid と shellability」（佐野良夫氏と共著）
 Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA2014)，茨城県つくば市研究交流センター，「Hereditary-shellable simplicial

complexes and extendability of shellings」(柏原賢二氏と共著)

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

学類 コンピュータ委員、3年クラス担任、障害学生支援室連絡窓口教員(社会工学類)

大学院 コンピュータ委員、入試実施委員、障害学生支援室連絡窓口教員(社会システム・マネジメント専攻)

4. 学外の社会貢献

- ◆ Graphs and Combinatorics 誌 Editorial board, 2015年1月より Managing Editor
- ◆ 日本数学会 応用数学分科会委員(2014年9月まで)
- ◆ 組合せ数学セミナー(COMAゼミ)幹事
- ◆ 国際会議 Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA2014) 実施委員
- ◆ JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏名	原田 信行	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 統計 I / 金融論 / 東京の都市学

大学院 企業評価論 / 時系列解析

◆ 指導学生数：

社会学類 3名 / 経営・政策科学専攻 3名 / 社会システム・マネジメント専攻 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「中小企業の雇用・技術と日本経済の再生」
(研究代表者)

筑波大学プレ戦略イニシアティブ「工学・デザイン・感性工学に基づく革新的プロダクトデザイン基盤の構築」(中核教員)

◆ 著書・論文等：

Harada Nobuyuki, “Intangible Investments and their Consequences: New Evidence from Unlisted Japanese Companies”, RIETI Discussion Paper 14-E-058, October 2014

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系長候補者 意向調査管理委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

社会学専攻 運営委員会委員

社会学類 カリキュラム委員会委員

氏名	藤井さやか	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任 環境科学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、まちづくり法制、住環境整備、団地再生、コミュニティ形成		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 総合科目・都市・地域・環境を語るⅠ・Ⅱ・Ⅲ／都市計画事例講義及び実習

大学院前期課程 プレイス・メイキング／住環境計画論

◆ 指導学生数：

社会工学類：0人／社会工学専攻：0名／環境科学専攻：0名（在外研究で不在のため）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 2013-14年度(財)日本財団・国際フェローシッププログラム「カナダにおけるPPPを活用した公的住宅団地の再生に関する研究」（代表）
- ・ 平成26-28年度科学研究費・基盤研究（C）・「北米における公的住宅団地の再々開発の実態分析と日本への示唆」（代表）
- ・ 平成25-28年度科学研究費・基盤研究（A）・「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」研究分担者（分担／代表・大澤義明）
- ・ 平成25-27年度二国間交流事業共同研究／セミナー・「集約的な都市空間構造における環境負荷と生活環境の質を考慮した混合型土地利用」参加者（分担／代表・鈴木勉）
- ・ 平成26年度 一般財団法人住宅総合研究財団「住環境の維持、向上に資する都市計画提案制度の活用方策の研究」研究分担者（分担／代表・工学院大学星卓志）

◆ 著書・論文等：

- ・ 藤井さやか, 樋野公宏: アメリカにおける CCRC の現状と日本での展開可能性, 住宅, 64, pp.57-66, 2015-03. (査読無)
- ・ Sayaka FUJII: Revitalization of Public Housing to Create Care Bases for Senior Citizens, USJI Voice, Vol.5, pp.1-4, 2015-01. (査読無)
- ・ 藤井さやか: カナダの大規模公共住宅団地の再生に関する研究: トロント市リージェント・パーク団地の再々開発を事例として, 都市計画論文集, 49(3), pp.813-818, 2014-11. (査読有)
- ・ Ken NIITANI, Sayaka FUJII, Tomokazu ARITA: Location and Development Control of Wind Farms in Japan, 1st International conference of International Alliance for Sustainable Urbanization and Regeneration, 2014-10. (査読有)
- ・ 藤井さやか: カナダにおける格差拡大と分極化に対する近隣レベルの挑戦, 都市計画, 310, pp.84, 2014-8. (査読無)
- ・ Sayaka FUJII: Renovation and Redevelopment of Public Housing to Create Bases for Aging in Place: The Historical and Current Role of Public Housing in Japan, Proceedings of the 16th International Planning History Society, pp.419-433, 2014-07. (簡易査読有)
- ・ Kimihiro HINO, Sayaka FUJII, et.al: The Living Environment in Tsukuba Science City, Japan: Progress and Current Challenges, Proceedings of the 16th International Planning History Society, pp.506-519, 2014-07. (簡易査読有)
- ・ Sachiko YAMAMOTO, Sayaka FUJII, et.al: Variety and Residents' Evaluation of Housing for National Officers in Tsukuba Science City, Japan, Proceedings of the 16th International Planning History Society, pp.1159-1171, 2014-07. (簡易査読有)

◆ 学会発表等：

- ・ Sayaka FUJII: Revitalization of public housing to create care bases for senior citizens in Japan, CRUNCH Housing & Health Research Seminar Series, 2015/3/2, McMaster University, Toronto.
- ・ Sayaka FUJII: Location and Development Control of Wind Farms in Japan, 1st International conference of International Alliance for

Sustainable Urbanization and Regeneration, 2014-10.

- Sayaka FUJII: Renovation and Redevelopment of Public Housing to Create Bases for Aging in Place: The Historical and Current Role of Public Housing in Japan, 16th International Planning History Society, 2014-07.
- Sayaka FUJII: Remaking Global City Tokyo: Private Sector 'Urban Renaissance' projects in Tokyo, Annual Meeting Program of Association of American Geographers, 2014-07.
- Sayaka FUJII: Revitalization of Public Housing: Challenges and Celebrations in Toronto and Japan, The Japan Foundation Toronto, 2014/6/4, The Japan Foundation, Toronto.

◆ その他 :

- 2014 年度日本都市計画学会年間優秀論文賞受賞「カナダの大規模公共住宅団地の再生に関する研究: トロント市リージェント・パーク団地の再々開発を事例として」

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - 在外研究のため担当なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - 在外研究のため担当なし

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動 :
 - 在外研究のため担当なし
- ◆ 査読実績 :
 - 日本建築学会 査読 1 本
 - 日本都市計画学会 査読 2 本
 - 計画行政学会 査読 1 本
- ◆ 学術指導・講師等 :
 - 講師「カナダの都市計画・住宅団地再生」INEX 推進協議会・海外の都市計画に係る講演会, 2015 年 3 月 23 日, 秋葉原 UDX カンファレンス.
 - 講座講師「竹園地区の将来構想を考えよう！」つくば市つくばまちづく

り体験講座. 2015年2月1日. つくば市竹園交流センター.

- ・ 講師「住みたい！住みたい！茨城県へ-茨城県のまち・人・しごと創生への期待-」茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び新しい県総合計画の策定にかかる勉強会, 2015年1月6日, 茨城県庁.
- ・ Sayaka FUJII: Revitalization of Public Housing: Challenges and Celebrations in Japan, Planning Alliance lunch time seminar, 2014/7/17, Planning Alliance, Toronto.
- ・ Sayaka FUJII: Redevelopment and Renovation of Public Housing in Japan, University of Toronto & Daniels Centre of Learning Regent Park, “Ask for A Professor”, 2014/4/7, Daniels Centre of Learning Regent Park, Toronto.

◆ 学外委員：

- ・ 県政関係：茨城県再生可能エネルギー導入促進事業評価委員会／神奈川県土地収用事業認定審議会
- ・ 都市計画審議会：板橋区／さいたま市
- ・ 高度地区関係：板橋区／墨田区／さいたま市
- ・ 建築審査会：柏市／土浦市
- ・ その他：柏市紛争調停委員会／石岡市景観調査委員会

氏名	藤川 昌樹	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画の歴史／まちづくりと空間設計の歴史と思想／東京の都市学／都市・地域・環境を探究／住環境計画実習／設計演習 II
大学院 都市形成史（環境計画史）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 2人／社会工学専攻博士前期 7人／社会システム・マネジメント専攻 2人／生命環境科学研究科 持続環境学専攻 3人
社会工学専攻研究生 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・科学研究費 基盤研究(B)「江戸武家地の空間変容に関する文理統合的研究」(代表)
- ・科学研究費 基盤研究(A)「被災・破損を起因とする建設の技術革新と建築様式に関する歴史的研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

- ・高松花・濱定史・小林久高・藤川昌樹・安藤邦廣「中国長白山麓の錦江村における井幹式民家の平面および断面構成の変容」(『日本建築学会計画系論文報告集』698、pp. 865-871、2014年4月)
- ・劉一辰・藤川昌樹「中国天津の英租界推広界の開発の計画意図及びその経緯」(『日本建築学会計画系論文報告集』704、pp. 2, 191-2, 198、2014年10月)
- ・江本硯・藤川昌樹「中国海洋大学構内空間構成の形成過程とその特徴」(『ランドスケープ研究』78(5)、pp. 437-442、2015年3月)
- ・藤川昌樹「新刊紹介『近世の建築・法令・社会』」(『建築史学』63、pp. 200-201、

2014年9月)

◆ 学会発表等：

・高屋麻里子・山縣杏香・藤川昌樹「江戸図復元地図にみる武家地の変遷過程 江戸城下武家地変遷の研究 その1」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築歴史・意匠、pp. 139-140、2014年9月)

・山縣杏香・高屋麻里子・藤川昌樹「大名小路の屋敷地の変容 江戸城下武家地変遷の研究 その2」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築歴史・意匠、pp. 141-142、2014年9月)

・海渡由紀子・藤川昌樹「鹿児島県奄美市笠利町宇宿集落の研究(その1) 集落空間の構成」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』農村計画、pp. 169-170、2014年9月)

・青柳由佳・藤川昌樹・安藤邦廣「鹿児島県奄美市笠利町宇宿集落の研究(その2) 土地利用の変容」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』農村計画、pp. 171-172、2014年9月)

・曾天然・藤川昌樹「中国四川省宜賓市建国前の都市状況と白酒醸造業の立地」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 389-390、2014年9月)

・劉一辰・藤川昌樹「中国天津における原英租界の形成過程」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 391-392、2014年9月)

・李雪・黒田乃生・藤川昌樹・安藤邦廣「中国貴州省における少数民族の木造民家の建設に関する研究-黔东南ミャオ族トン族自治州従江県公納村を事例として-」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築計画、pp. 967-968、2014年9月)

・李双紅・藤川昌樹「紫禁城養心殿における植物盆景による空間演出」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築計画、pp. 991-992、2014年9月)

◆ 講演ほか：

・「災害に強い伝統的町並みの形成」(藤川昌樹、県民大学講座「巨大地震と茨城の安心安全な都市づくり」、取手市役所藤代庁舎、2014年7月16日)

・「歴史的町並みと建築の調査-常陸太田市鯨ヶ丘を事例に」(藤川昌樹、いばらき地域文化財専門技術者育成研修、常陸太田市山吹運動公園市民体育館会議室、2014年8月30日)

・「鯨ヶ丘の歴史を活かしたまちづくり」(藤川昌樹、「文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会」文化庁 NPO 等による文化財建造物の管理活用

事業、常陸太田市生涯学習センター講座室、2014年9月25日)

・「鯨ヶ丘の町並み」(藤川昌樹、いばらき地域文化財専門技術者育成研修、常陸太田市山吹運動公園市民体育館会議室、2014年9月27日)

・「大名小路の変容と武家屋敷の構成」(藤川昌樹、科研費シンポジウム「江戸武家地の空間変容」、筑波大学東京キャンパス文京校舎、2015年1月24日)

・「日本の住まいの源流を探る-中国吉林省「井幹式民家」調査報告-」(藤川昌樹、まちなみ大学、吉良川まちなみ館、2015年2月12日)

・「旧東光社女工寄宿舎」(藤川昌樹、フォーラム「シルクロードでつなぐ街と人」、横浜開港記念会館、2015年3月15日)

・“Historical preservation of traditional residences in Japan and China”(藤川昌樹、華南理工大学建築学院、International Professor Lecture Program、2015年3月30日~4月2日 [全5回])

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

・つくば・地域連携推進室員

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

・社会システム工学専攻長/社会工学専攻社会工学学位プログラムリーダー

・社会工学専攻/社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

・建築史学会編集委員

・日本建築学会・都市計画学会論文査読

◆ 学外から委嘱された委員

・芸術文化振興基金運営委員会文化財専門委員会委員

・茨城県景観審議会委員

・室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員(高知県)

・つくば市景観審議会委員

・つくば市文化財保護審議会会長

・桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

・史跡真壁城跡整備検討委員会委員(桜川市)

・桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長

- ・土浦市文化財保護審議会委員
- ・土浦市都市計画審議会会長
- ・笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）

◆ 兼業

東京大学大学院新領域創成科学研究科

氏名	松原 康介	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会学専攻 専任		
担当学類	国際総合学類 専任 社会学類 兼担		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

「住まいと居住環境の計画」

「まちづくりと空間設計の歴史と思想」

「都市文化共生計画」

大学院

「都市形成史」

◆ 指導学生数：

国際総合学類 5人／社会学類 2人／社会学専攻 7人／

社会システムマネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費（若手研究 A）「多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史」

科研費（挑戦的萌芽）「アレppoの戦災状況調査と戦災復興都市計画原案の策定」

◆ 著書・論文等：

1. Kosuke Matsubara, "The Morphology of Beirut's Multilayered Downtown Area", Proceedings of the 16th International Planning History Society, Florida, 2014, Select Full Papers, -Volume 2-, pp.741-750.

2. Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation for Evolutional Housing and Slum Upgrading Projects under Mayor Chevallier -Spatial Experience of Gyoji Banshoya in Algiers", in *Sustainable North African Society, Exploring Seeds and Resources for Innovation*, Nova Publishers, 2014, pp.267-284.

3. Kosuke Matsubara, "The Work of Gyoji Banshoya in the Middle East and North Africa" in Hidemitsu Kuroki (ed.), *Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut*, Studia Culturae Islamicae, No.102, Tokyo, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2015, pp.167-192.

◆ 学会発表等：

1. 松原康介「番匠谷堯二「トタンバラック移転用の住宅」(1955)の進化型住宅としての特徴」日本建築学会学術講演梗概集、pp.343-344、2014年8月

2. Kosuke Matsubara, "Evolutional Housing in the last years of French Algiers", *Proceedings of the International Symposium on City Planning*, 2014, pp.1-18, 2014.

3. 松原康介「シリアにおける日本の都市計画協力の実績と戦災復興の展望」、国際シンポジウム「シリア内戦下の文化遺産：その危機と保護にむけて」、筑波大学・常木晃研究室主催、2015年2月21日

◆ その他：

Prix de l'Académie d'Architecture(フランス建築アカデミー書籍賞受賞)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

北アフリカ研究センター運営委員

タシケントオフィス運営委員

アルマトイオフィス運営委員

留学生センター運営委員

留学生センター学生の海外派遣小委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

システム情報工学研究科社会工学専攻入試実施委員

国際総合学類運営委員

国際総合学類総合科目担当委員

国際総合学類大学説明会担当委員

4. 学外の社会貢献

◆ 共同研究員等：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

(中東都市社会における人間移動と多民族・多宗教の共存プロジェクト：第2期)

◆ 学会活動：

日本都市計画学会 国際委員

国際都市計画史学会

国際開発学会

日本建築学会 図書委員会文献抄録第5部会委員 アジア建築交流委員会委員

日本中東学会

地中海学会

都市史学会

日仏東洋学会 広報担当幹事

氏名	繆瑩	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組合せテサイ理論、情報セキュリティ、情報通信、 遺伝子情報解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 線形代数II/情報ネットワーク/社工専門英語
 - 大学院 電子商取引
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0人
 - 社会システム工学専攻 0人
 - 社会システム・マネジメント専攻 2人
 - 社会工学専攻 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究(C)「組合せ論的マルチメディア指紋符号とその不正者追跡アルゴリズムの研究」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] M. Cheng, H.-L. Fu, J. Jiang, Y.-H. Lo and Y. Miao, New bounds on 2-separable codes of length 2, *Designs, Codes and Cryptography* 74 (2015), 31-40.
 - [2] J. Chen, D. Wu and Y. Miao, Bounds and constructions for $(v, W, 2, Q)$ -OOCs, *Discrete Mathematics* 328 (2014), 16-22.
 - [3] X. Wang and Y. Miao, GAEM: A hybrid algorithm incorporating GA with EM for planted edited motif finding problem, *Current Bioinformatics* 9 (2014), 463-469.

[4] X. Wang, Y. Miao and M. Cheng, Finding motifs in DNA sequences using low-dispersion sequences, *Journal of Computational Biology* 21 (2014), 320-329.

◆ 学会発表等：

[1] Y. Miao, Strongly separable codes, *ALCOMA 15, Algebraic Combinatorics and Applications, Conference in Memory of Alex Kohnert, Kloster Banz, Germany, March 15-20, 2015.*

[2] Y. Miao, On an extension of collaboration distance, 研究集会「実験計画法およびその周辺の組合せ構造」, 兵庫県豊岡市城崎町湯島 1062 城崎国際アートセンター, 平成 26 年 12 月 13 日-12 月 15 日.

[3] Y. Miao, Group testing in multimedia fingerprinting, School of Mathematics and Statistics, Guangxi Normal University, Guilin, China, September 12, 2014.

[4] Y. Miao, Fingerprinting codes and related extremal bipartite graphs, Japan Conference on Graph Theory and Combinatorics, Nihon University, Tokyo, Japan, May 17-21, 2014.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学 外国語センター学類代表/中国北京事務所運営委員会
システム情報工学研究科 早期修了プログラム実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 博士論文委員長/留学生支援委員長

4. 学外の社会貢献

◆ Editor: *Graphs and Combinatorics*, Springer, April 2002 – present.

◆ Editor: *Journal of Combinatorial Designs*, John Wiley & Sons, January 2004 – present

◆ Editor: *Journal of the India Society of Agricultural Statistics*, August 2009 – present

◆ 共同主催者：研究集会「有限幾何と組合せデザイン」, 東京理科大学神楽坂キャンパス 8 号館 842 教室, 平成 27 年 3 月 6 日-7 日.

◆ 共同主催者：研究集会「実験計画法および関連する組合せ構造 2014」, 城崎

国際アートセンター, 平成 26 年 12 月 13 日-15 日.

- ◆ Organizing Committee: The Japanese Conference on Combinatorics and its Applications 2014, The Tsukuba Center for Institutes, Tsukuba, Japan, August 25-29, 2014.

氏名	村上 暁信	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市環境計画, 都市農村計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市緑地計画, 都市計画マスタープラン策定実習, 社会工学実習, 都市環境評価論, 現代まちづくりの理論と実践, 総合科目「都市・地域・環境を探る」
大学院 景観計画論, Landscape Planning, Exercises in Environmental Sciences

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 3人／社会工学専攻 1人(博士後期)／環境科学専攻 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 (いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装) 「「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりの実装」(分担)

人間文化研究機構・総合地球環境学研究所 Full Research 研究プロジェクト 「都市をめぐる循環と多様性：人類と地球環境を架橋する巨大で複雑なシステムの未来可能性」(分担・コアメンバー)

◆ 著書・論文等：

村上暁信, 王彦：都市緑化による熱的快適性の改善効果に関する研究. 日本都市計画学会都市計画論文集, 49(3), 231-236, 2014 (査読有)

村上暁信, 栗原伸治, 原科幸爾：インドネシア・ジャカルタの都市内カンボンにおける放射環境と住民の屋外空間利用に関する研究. 日本都市計画学会都市計画論文集, 49(1), 65-70, 2014 (査読有)

三瓶由紀, 原祐二, 村上暁信, アルマンド・パリフォン, 土屋一彬, 横張真 :
メトロマニラ郊外部を対象とした有機性廃棄物の地域内循環実現可能性. ラ
ンドスケープ研究, 77(5), 697-700, 2014 (査読有)

谷口守, 伊勢晋太郎, 陳鶴, 村上暁信 : 環境バランスエリアの創世に関する
試論ー茨城県を対象としたケーススタディー. 土木学会論文集 D3, Vol.70,
No.5(土木計画学研究・論文集, Vol.31), 93-102, 2014 (査読有)

蓑原敬・中島直人・饗庭伸・野澤千恵・姥浦道生・日埜直彦・村上暁信・藤
村龍至 : 白熱講義 これからの日本に都市計画は必要ですか?. 学芸出版,
2014

村上暁信 : 都市のみどりは役に立っているか?. 環境情報科学, 43(1), 28-33,
2014 (総説)

◆ 学会発表等 :

Murakami, A., Kumakura, E., Halatsch, J., Kunze, A. : Digital archive of
community memories before the 2011 Tohoku earthquake and tsunami in
Japan - Rebuilding lost place and landscape using CityEngine, 5th
Digital Earth Summit 2014, 2014

◆ その他 :

東日本震災復興に関わる研究として実施しているデジタルアーカイブの作成
活動が, 朝日新聞「3.11以前の岩沼3Dに 筑波大など, 6集落再現」(2014
年8月5日), 河北新聞「津波で流失したまち, 3D画像で再現」(2014年08
月23日)に掲載された。

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
スーパーグローバル大学事業タスクフォース委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会システム・マネジメント専攻運営委員
環境科学専攻入試実施委員会 委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 政府・地方自治体・独立行政法人等の座長・会長・委員 :
日本学術会議連携会員
東京都港区生物多様性地域戦略策定委員会委員

「横浜市エキサイトよこはま 22 環境検討部会」委員

◆ 学会活動：

日本造園学会学術委員会委員

日本都市計画学会国際委員会委員

環境情報科学センター評議員，学術委員会委員，論文集委員会副委員長

農村計画学会評議員

氏名	山本 幸子	職名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ストック活用計画, 住宅計画, 地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 設計演習Ⅰ／住環境計画実習／住まいと居住環境の計画／

総合科目Ⅱ

創造的復興:視点構築演習・チャレンジ学外実習／現代まちづくりの理論と実践

大学院：住環境計画論（環境科学専攻）

指導学生数：

社会工学類 2名／社会工学専攻 1名／環境科学専攻 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

若手研究 B:「体験・就業支援と空き家活用を組み込んだ包括的移住支援システムの構築」(代表)

基盤研究 B:「過疎地域における廃校・空き家を活用した地域主導型福祉サービスネットワークの構築」(分担)

2014年度土浦市受託研究:「ソトモノ・ワカモノの視点から見た「土浦の魅力・強み」の発掘とその PR に関する調査」(分担)

◆ 著書・論文等：

- 1) 山本幸子, 中園真人: 廃校と空き家を活用した都市農村交流プログラムの展開ー下関市菊川町「貴和の里につどう会」の事例ー, 日本建築学会技術報告集, 第 21 巻, 第 47 号, pp.327-332, 2015.2
- 2) 小林文香, 山本幸子, 石垣文, 下倉玲子, 福田由美子: 転入促進のための住宅提供に取り組む住民団体の実態および転入者の特性 小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムに関する研究 その 1, 日本建築学会計画系論文集, 第 79 巻, 第 704 号, pp.2173-2180, 2014.10

- 3) 中園真人、後谷一機、山本幸子：農家住宅納屋を改修した児童クラブハウス「つばめの家」の夏休み期間中の使われ方，日本建築学会計画系論文集，第79巻，第698号，pp.965-972，2014.4

◆ 学会発表等：

- 1) Chikako Uchiyama and Sachiko Yamamoto, Features and issues of migration and settlement support policies for young people by local governments, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.1090-1094, 2014.10 (査読有)
- 2) Sachiko Mishima, Mahito Nakazono, Madoka Komine, Shohken Koh and Sachiko Yamamoto, Regional Characteristics of Establishment Process and Location of Day Service Facilities for the Elderly, Case Study on Yamaguchi Prefecture by Using the Local Government Units at 1950, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.240-244, 2014.10 (査読有)
- 3) Saori Ohashi, Syohken Koh, Sachiko Mishima, Nagisa Ishibashi, Mahito Nakazono and Sachiko Yamamoto, The Supply Process of Day Care Facilities for Elderly-people by Social Welfare Corporation “Hagi Syakaifukusi Jigyoudan” in Hagi City, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.230-234, 2014.10 (査読有)
- 4) Yuri Ito, Yoshioka Ayaka, Sachiko Yamamoto, Mahito Nakazono and Mako Morikawa, Public Service Standard and Demand for Childcare Support Facilities in Mountainous Areas: Case Study on Yamaguchi Prefecture, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.325-329, 2014.10 (査読有)
- 5) Sachiko Yamamoto, Sayaka Fujii, Kimihiro Hino and Shun Watanabe, Variety and Residents’ Evaluation of Housing for National Officers in Tsukuba Science City, Japan, Proceedings of the 16th International Planning History Society, pp.1185-1197, 2014.7 (査読有)
- 6) Kimihiro Hino, Sayaka Fujii, Sachiko Yamamoto, Akinobu Murakami and Shun Watanabe, The Living Environment in

Tsukuba Science City, Japan: Progress and Current Challenges,
Proceedings of the 16th International Planning History Society,
pp.480-493, 2014.7 (査読有)

- 7) ○山本幸子：所有者の空き家提供意思決定プロセスの考察：所有者の
空き家提供意思決定プロセスの考察，日本建築学会学術講演梗概集，
pp.357-358，2014.9
- 8) ○伊藤優里、山本幸子、中園真人：山口市における「地域型」子育て支
援施設の講座・イベントの運用形態：既存建築を活用した子育て支援
拠点整備に関する研究 その4，日本建築学会学術講演梗概集，
pp.213-214，2014.9
- 9) ○内山周子，山本幸子：地方自治体における地域特性に対応した移住・
定住政策の特徴と課題，日本建築学会学術講演梗概集，pp.103-104，
2014.9

◆ その他：

木の建築大賞（山口大学中園研究室での共同設計）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学グローバルレジデンス整備事業審査委員会委員（全学）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類4年生クラス担任
社会工学類建築士受験資格運営委員会
社会システム工学専攻FD委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - 1) 日本建築学会建築社会ストック委員会・住宅の地方性小委員会「住宅市場政
策WG」メンバー（2013年4月～）
 - 2) 日本建築学会住宅系研究報告会運営幹事（2013年8月～）
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - 1) 農山村地域における耕作放棄地・空き家条例（仮称）検討委員会」委員（京
都府）（2014年8月～）
 - 2) 土浦市空き家等審議会委員（2014年5月～）
 - 3) つくば市ホテル等建築審議会委員（2013年2月1日～）
- ◆ 講演，パネルディスカッション

- 1) 地域づくりと空き家活用, 第4回島根大学ウッド・デザインプロジェクトセンター講演会 (2015年1月)
- 2) 常陸太田市合併10周年記念/平成26年度防災・日本再生シンポジウム:「人口減少時代における持続可能な地域づくり」、パネルディスカッション (2014年12月6日)
- 3) 2014年住宅系研究報告会、パネルディスカッション「空き家 住宅系研究の視点から」 (2014年12月5日)
- 4) 茨城県まちづくりシンポジウム、パネルディスカッション「人口減少時代のコンパクトなまちづくり」 (2014年11月22日)
- 5) 地域活性化を目的とした空き家活用のしくみと課題, 平成26年度過疎対策担当職員研修会 (講演) (2014年9月11日)

氏名	山本 芳嗣	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理工学, 最適化, オペレーションズ・リサーチ		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 微積分 II, 計算機科学, 数理工学モデル化実習
大学院 ゲーム理論
- ◆ 指導学生数 :
社会工学類 0名 / 社会システム・マネジメント専攻 2名 / 社会工学専攻 2名
(五十嵐, 佐藤)

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
モジュラリティ最大化問題とカーネル関数を用いたランキング問題に対するアルゴリズムの開発とその性能評価を行った.
- ◆ 著書・論文等 :
 - Y. Izunaga, K. Sato, K. Tatsumi and Y. Yamamoto, "Row and Column Generation Algorithm for Maximization of Minimum Margin for Ranking Problems," 数理解析研究所講究録/1931/pp.18-30, 2015-01
 - 稲葉 言史, 伊豆永 洋一, 山本 芳嗣, "モジュラリティ最大化問題に対するラグランジュ緩和法" 数理解析研究所講究録/1931/pp.1-17, 2015-01
 - Y. Izunaga, K. Sato, K. Tatsumi and Y. Yamamoto, "Row and Column Generation Algorithm for Maximization of Minimum Margin for Ranking Problems," accepted Operations Research Proceedings 2014, Springer.
 - K. Inaba, Y. Izunaga and Y. Yamamoto, "A Lagrangian Relaxation Algorithm for Modularity Maximization Problem," accepted Operations Research Proceedings 2014, Springer.
- ◆ 学会発表等 :
 - 2014年8月, Fachbereich 4 - Mathematik, Universität Trier, Germany,

“Row and column generation algorithm for minimum margin maximization of ranking problems”

- 2014年9月, International Conference on Operations Research 2014, Rheinisch-Westfälische Technische Hochschule Aachen, Germany, “Row and column generation algorithm for minimum margin maximization of ranking problems”
- 2014年9月, International Conference on Operations Research 2014, Rheinisch-Westfälische Technische Hochschule Aachen, Germany, “A Lagrangian Relaxation Algorithm for Modularity Maximization Problem”
- 2014年12月, Workshop on Urban Operations Research, Nanzan University, “Row and column generation algorithm for minimum margin maximization of ranking problems”

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学学群教育課程委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 人事懇談会世話人
 - 社会工学専攻運営委員
 - 社会工学類カリキュラム委員長
 - 社会工学類入試委員
 - 社会工学類2年クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ Journal of the Operations Research Society of China の Associate editor
- ◆ Optimization and Engineering の Editorial board

氏名	吉瀬 章子	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化, オペレーションズ・リサーチ, サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法／数学の言葉
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計 17名

システム情報工学研究科

社会システム・マネジメント専攻 3名

社会システム工学専攻 2名

経営・政策科学専攻 0名

社会工学専攻・社会工学学位プログラム 4名

社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 5名

理工学群社会工学類 3名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究 (B) 「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負値行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」(代表)
 - 科学研究費 基盤研究 (A) 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究 (C) 「実用的な微分フリー最適化アルゴリズムの開発」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究 (C) 「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - 吉瀬章子, 「対称錐ではない凸錐上の最適化問題 - 錐最適化と行列の非負性に関するいくつかの話題」, システム/制御/情報 59 (2014) 27-32.

Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "An LP based algorithm to test copositivity," *Pacific Journal of Optimization* 11 (2014) 101-120.

横尾知孝・田中彰浩・吉瀬章子, 「円パッキング問題に対する半正定値緩和法の改良に関する考察」統計数理研究所共同研究レポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」27 (2015) 95-107.

◆ 学会発表等：

Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "An LP Based algorithm to test copositivity," SIAM Optimization 2014, 2014年6月19日～2014年5月22日, San Diego, U.S.A.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

(全学) 保育施設委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

(専攻) 経営政策科学専攻長, 社会工学専攻サービス工学学位プログラムリーダー

(学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)

Pacific Journal of Optimization 編集委員

日中最適化会議運営委員

国際会議 ICCOPT 2014 運営委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員

論文査読：Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, Nonlinear Analysis Series A: Theory, Methods & Applications, 等

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

科学技術振興調整費評価作業部会委員

氏名	吉野 邦彦	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	生命環境科学研究科環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	環境影響評価, 環境リモートセンシング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画実習，都市計画情報実習，都市環境評価論

博士前期課程：環境空間情報工学（環境科学専攻），環境科学実習（春および秋学期），

◆ 指導学生数：

卒論生 2名

大学院前期課程（環境科学専攻） 2名

大学院後期課程（持続環境学専攻） 2名

研究生 1名（システム情報工学研究科1名，環境科学専攻0名）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) 科研費 基盤研究（一般）(B) (代表) 湿原生態系保全のためのリモートセンシング観測諸元の解明
- 2) 植物形態の3Dモデリング手法の開発
- 3) 科研費 基盤研究（一般）(A) (分担) 農業および水環境におけるコロイド界面現象の工学的体系化

◆ 著書・論文等：

- 1) Yudi Setiawan, Ernan Rustiadi, **Kunihiko Yoshino**, Liyantono, Hefni Effendi (2014). Assessing the Seasonal Dynamics of the Java's Paddy Field using MODIS Satellite Images, ISPRS International Journal of Geo-Information, Vol.3, p.110-129. doi:10.3390/ijgi3010110
- 2) **Yoshino, K.**, Kawaguchi, S., Kanda F., Kushida, K., and Tsai, F. (2014). Very High Resolution Plant Community Mapping at High Moor, Kushiro Wetland. PE&RS Vol.80, No.9, September 2014,

pp.895-905.

- 3) Tomoyo Hoshi, Osamu Murao, **Kunihiko Yoshino**, Fumio Yamazaki, and Miguel Estrada, Post-disaster Urban Recovery Monitoring in Pisco after the 2007 Peru Earthquake Using Satellite Image. Journal of Disaster Research Vol.9 No.6, 1059-1068
- 4) Khishigsuren NYAMSAMBUU and 吉野邦彦, 2014. 衛星リモートセンシングと GIS を用いたモンゴル・バヤン群の牧草生育状況の空間分布の特徴と草地管理. 農業リモートセンシング・ハンドブック (増補版). 秋山侃、石塚直樹、小川茂男、岡本勝男、斉藤元也、内田諭編著、分担執筆 : 佐藤印刷(株)、2014 年出版. p. 134-137.
- 5) Yudi SETIAWAN and 吉野邦彦, 2014. MODIS EVI 時系列データを用いた土地利用変化の検出. 農業リモートセンシング・ハンドブック (増補版) 2014 年出版」、秋山侃、石塚直樹、小川茂男、岡本勝男、斉藤元也、内田諭編著、分担執筆、佐藤印刷(株)、, p. 206-209.

◆ 学会発表等 :

- 1) **Yoshino Kunihiko**, Setiawan Yudi and Shima Eikichi(2015). Land Use Analysis Using Time Series of Vegetation Index Derived from Satellite Remote Sensing in Brantas River Watershed, East Java, Indonesia. The International Symposium on Cartography in Internet and Ubiquitous Environments 2015 17th - 19th March, Tokyo (フルペーパー査読有, in review)
- 2) Tien Dat Pham and **Kunihiko Yoshino** (2015). Mangrove mapping and change detection using multi-temporal landsat imagery in Hai Phong City, Vietnam. The International Symposium on Cartography in Internet and Ubiquitous Environments 2015 17th - 19th March, Tokyo(フルペーパー査読有, in review)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
システム情報工学研究科 : FD 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会工学域 : FD 委員長 (アニュアルレポート, ファカルティセミナー, 防災,

懇親会，産学連携，社会連携，授業評価担当）都市分野昼食会幹事（12月～3月）

学群：2年生クラス担任（学生相談，クラス連絡会）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県環境影響評価審査会委員 2013-08～2014-07～2015-07
- ◆ つくば市環境審議会委員 2013-07～2014-06
- ◆ JSPRS 編集委員・評議委員

氏名	渡邊 真一郎	職名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組織行動論、産業・組織心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営組織論/社会調査実習/社工専門英語
大学院 組織行動論

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名 / 社会システム工学専攻 3名 /
社会システム・マネジメント専攻 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤 (B) 看護行動研究への組織心理学アプローチ (代表)

◆ 学会発表等：

1. Watanabe, S., Akiyama, F., Kanazawa, Y., & Milovanovic, I. (forthcoming). Proposing a multidimensional model of continuance commitment in a context of Japanese female nurses. To be presented at the 27th Annual Convention of *the Association for Psychological Science*, New York.
2. Watanabe, S., Arakawa, K., Milovanovic, I., & Kanazawa, Y. (2014). When nurses become emotionally attached to hospitals: Roles of trust and job satisfaction. To be presented at the 26th Annual Convention of *the Association for Psychological Science*, San Francisco.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

理工学群 体育センター運営委員
システム情報系 研究倫理委員会

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

社会工学類 就職委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ Cornell Admissions Amabassador Association Network 日本支部委員

氏 名	渡辺 俊	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
基本製図／住環境計画実習

大学院 空間情報科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 4人／研究生 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(A)「地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の新展開」(分担)

科学研究費 基盤研究(A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

1. Shun Watanabe and Haruka Kitada : Generative Grammar of Modern Japanese City Planning, Proceedings of the 19th International Conference on Computer-Aided Architectural Design Research in Asia (CAADRIA 2014), pp.555-564, 2014.5

2. 松林道雄、渡辺俊：既存建築ストックの維持更新に向けた BIM による設計図書電子化の検討 -筑波大学の施設 を題材として-、日本建築学会技術報告集, 第 20 巻第 45 号, pp.795-798, 2014.06

3. Sachiko Yamamoto, Sayaka Fujii, Kimihiro Hino and Shun Watanabe : Variety and Residents Evaluation of Housing for National Officers in Tsukuba Science City, Japan. Proceedings of the 16th International

Planning History Society, pp.1185-1197, 2014.7

4. Kunihiro Hino, Sayaka Fujii, Sachko Yamamoto, Akinobu Murakami and Shun Watanabe : The Living Environment in Tsukuba Science City, Japan: Progress and Current Challenges, Proceedings of the 16th International Planning History Society, pp.480-493, 2014.7

◆ 学会発表等 :

1. Michio Matsubayashi and Shun Watanabe : Converting Drawings and Specifications of Building Stock to BIM Model, Proceedings of the 19th International Conference on Computer-Aided Architectural Design Research in Asia (CAADRIA 2014), pp.929-930, 2014.5

2. 松林道雄、渡辺俊 : 国立大学既存ストックにおける設計仕様書電子化の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.39-40、2014.9

宮尾采佳、渡辺俊 : 日奈久温泉街の街並み変遷に関する研究、現存する木造旅館を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1125-1126、2014.9

3. HUANG QIONGYI、渡辺 俊 : 旅の始まり&旅の終わり—ツーリストインフォメーションセンターを中心に新しいパブリックスペースとオープンスペースの提案—、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集、pp.30-31、2014.9

4. Michio Matsubayashi and Shun Watanabe : Using BIM for Conversion of Design Documents into Electronic Form, Tsukuba Global Science Week 2014 pp.119-120, 2014.9

5. 松林道雄、渡辺俊 : 既存建築ストック更新に向けた BIM による設計図書電子データ化とその利用可能性 接続情報を用いた複数要素の関連付け、応用地域学会 2014 年度大会、2014.11

6. 松林道雄、渡辺俊 : 接続情報に基づく BIM モデルからの系統図の生成—BIM を用いた電子データ化による設計図書の整備とその活用方法—、日本建築学会第 37 回情報・システム・利用・技術シンポジウム、pp.211-214、2014.12

7. 堀之内志帆、松林道雄、渡辺 俊 : 複数中心性による移動手段別都市構造分析 —茨城県つくば市を対象として—、日本建築学会第 37 回情報・システム・利用・技術シンポジウム、pp.323-326、2014.12

1. Ning Gu, Shun Watanabe, Haili Erhan, Matthias Hank Haeusler, Ricardo Sosa, eds. Rethinking Comprehensive Design: Speculative Counterculture, The 19th International Conference on Computer-Aided Architectural Design Research in Asia (CAADRIA 2014), pp994, 2014.5

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK 2014
研究科情報環境委員会
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 コンピュータ委員、就職委員
社会工学類 4年担任、コンピュータ委員、就職委員、授業評価・FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員
- ◆ 日本建築学会日本建築学会奨励賞選考委員会委員
- ◆ 日本建築学会デザイン科学教育方法研究小委員委員
- ◆ 日本建築学会設計情報検証WG 委員
- ◆ 日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG 委員

氏名	渡邊 直樹	職名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ゲーム理論、実験経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習、ミクロ経済学、社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習

大学院 ゲーム理論

◆ 指導学生数：

社会工学（博士後期課程） 2名

社会システム工学（博士前期課程） 1名、経営・政策科学研究科（博士前期課程） 1名

社会工学における戦略的思考 artisoc 班 2 2014年度（学類）

第 15 回 MAS コンペティション（構造計画研究所）にて発表（応募 24 件中 14 件採択）「建物火災時の避難行動に心理的要因が与える影響—正常性バイアス、集団同調性、愛他的行動に着目して—」

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1] 文部科学省科学研究費 基盤研究C 代表者 （2012-2015年度）

「重み付き投票メカニズムにおける交渉過程の実験経済学的分析」

[2] 文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担者 （2012-2015年度）

「組織間提携の形成、維持、拡大：気候変動枠組み条約への応用」

研究代表者：今井晴雄（京都大学）

◆ 著書・論文等：

[1] “A Methodological Note on a Weighted Voting Experiment,” Eric Guerci, Nobuyuki Hanaki, Naoki Watanabe, Gabriele Esposito, Xiaoyan Lu, *Social Choice and Welfare* 43, 827-850, 2014

- [2] “Coalition Formation in a Weighted Voting Experiment,” Naoki Watanabe, *Japanese Journal of Electoral Studies* 30, 56-67, 2014 (invited paper)
- [3] 「ミクロ経済学理論におけるコンピューテーショナルアプローチ」、花木伸行、渡邊直樹、「組織と制度のミクロ経済学」(堀一三、国本隆、渡邊直樹、編著)、pp. 272-293、京都大学学術出版会、2015
- [4] 「重み付き投票実験における提携形成」渡邊直樹、「組織と制度のミクロ経済学」(堀一三、国本隆、渡邊直樹 編著)、pp. 211-241、京都大学学術出版会、2015
- [5] 「ミクロ経済学のフロンティアを求めて」渡邊直樹、堀一三、国本隆、「組織と制度のミクロ経済学」(堀一三、国本隆、渡邊直樹 編著)、pp. 1-24、京都大学学術出版会、2015

◆ 学会発表等：

- [1] “Meaningful Learning in Weighted Voting Games: An Experimental Study,” 14th SAET Conference, August 21, 2014

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
2年生担任

4. 学外の社会貢献

関西大学経済実験センターワークショップ プログラム委員長（2015年3月）
京都大学グローバル生存学大学院連携ユニット経済実験室運営委員会運営委員
（2013年1月から現在まで）
大阪大学社会経済研究所 招聘准教授（2014年8月から現在まで）